

第13回宝塚市教育環境審議会
会議概要

開催日時	令和8年(2026年)8月19日(水)13:30~15:40
開催場所	宝塚市役所第2庁舎 1階 会議室 A・B
出席者	【委員】18名 前田会長、辻委員、石野委員、小島委員、河野委員、平松委員、迫委員、柳田委員、佐藤委員、西畑委員、高井委員、西林委員、田井委員、田村委員、橘委員、岡野委員、小和田委員、高橋委員 (欠席) 當山副会長 【教育委員会事務局】 (管理部) 高田部長、廣瀬次長、三浦課長、原職員、大山職員 (学校教育部) 三ヶ尻次長、植出所長、梅本係長 【意見陳述】未成幼稚園 PTA 会長、丸橋幼稚園 PTA 会長、宝塚幼稚園 PTA 会長 【傍聴】22人
次第・議事	1 開会 2 会議の成立及び公開について 3 議題 (1) 諮問事項1: 市立幼稚園の適正規模及び適正配置について (2) 諮問事項2: 市立幼稚園の教育・保育の在り方について(機能充実) (3) 諮問事項3: 教育委員会及び市立幼稚園の公教育としての役割について 4 その他 5 閉会
会議録(概要)	
事務局	【1 開会】 定刻になったので、第13回宝塚市教育環境審議会を開会する。本日は御多忙中にもかかわらずご出席いただき、誠にありがとうございます。開会に先立って、事務局より4点報告する。 1点目、前回の審議会の配付資料と議事録に一部修正箇所があったので報告する。配付資料の一番最後に「前回の資料及び発言内容の訂正について」というA4判1枚の紙を同封している。修正箇所は、閉園するタイミングについての①「令和10年度末をもって閉園する場合」の令和8年度現在の子どもの年齢が「2歳児」となっていたものを「3歳児」に、「3年保育」を「2年保育」に修正した。②についても、令和8年度現在の子どもの年齢が「1歳児」となっていたものを「2歳児」に、「3年保育」を「2年保育」に修正した。この資料の説明をしていた箇所の議事録についても併せて修正し、市のホームページには修正したものを掲載する予定である。 2点目、笠井委員から8月7日付で、本人の体調不良を理由とした委員の辞任届の提出が事務局にあったため、後任として小島委員に審議会の委員を委嘱したので報告する。

3点目、前回の審議会で、当事者である市立幼稚園の保護者が委員にいないことのご指摘があった。会長とも相談し、執行機関の附属機関設置に関する条例第1条の宝塚市教育環境審議会の委員総数に関する規定、及び宝塚市教育環境審議会規則第4条の臨時委員の規定「臨時委員は、特定の市立学校又は地域に関する事項その他の特別の事項を調査審議させるため必要があるときに、教育委員会がその事項を明示して委嘱する。」に基づき、今回、平松委員を市立幼稚園の保護者代表として臨時委員に委嘱したので報告する。

4点目、前回の資料で要望書・意見書について、市立幼稚園の保護者の方のご意見を十分に説明できず、申し訳なかった。本日の審議会では、今回の審議事項についてどのような声が寄せられているかを知っていただくために、昨日、資料2と3を委員の方々に送信した。あわせて、当事者の方から直接ご意見を聞くため、本日の審議会で意見陳述の機会を設けたいと考えている。宝塚市教育環境審議会規則第7条「意見または説明の聴取」の規定では、「審議会は、特に必要があると認めるときは、委員以外の者に会議への出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。」と規定されている。議事が始まったら、意見陳述の実施について委員の皆様で可否を決定していただきたい。意見陳述の実施が決定した場合は、陳述者の発言内容について委員の皆様から陳述者に対して質疑応答の時間を設けたい。委員から出された質問については陳述者に回答していただきたい。その後の審議については、聴取した意見について発言された方の前では発言しづらいことも想定されることから、委員個人の意見については審議会終了後、事務局に電子メールで提出していただきたい。提出された意見について、知識経験者の先生方に取りまとめていただき、答申案に盛り込む作業を進めたい。第14回の審議会で答申案について審議していただく予定である。意見聴取の実施に関することは、議題のところで審議していただく予定である。事務局からの報告は以上である。

【2 会議の成立及び公開について】

宝塚市教育環境審議会規則第6条第2項の規定により、委員の過半数の出席により会議が成立する。本日は委員19人中18人が出席しているので、会議が成立していることを報告する。次に会議の公開について、本市の審議会等の運営に関する指針に基づき、会議は公開を原則としている。

宝塚市教育環境審議会傍聴要綱第3条により、会長は会議の開催場所・会議室の規模に応じて傍聴の定員を設けることができる。ただし、法令等で非公開とされているものや審議事項が個人情報等に触れる場合は、本審議会で決定した場合に会議を非公開とすることができる。本日の議事等に個人情報等に関する事項はないので、公開とする。

本日は傍聴席を設けており、傍聴の申し出があれば許可することとしている。本日は22人の傍聴希望者がいる。傍聴を希望される方は、受付時にお渡しした「傍聴希望される皆様へ」をご一読いただき、会場内では静粛に傍聴していただくようお願いする。それでは会議の進行を会長にお願いする。

会長	【3 議題】 よろしくお願いします。会議の冒頭で事務局から説明があったが、宝塚市教育環境審議会規則第7条に意見または説明の聴取に関する規定があり、「審議会は、特に必要があると認めるときは、委員以外の者に会議への出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。」と定められている。この規定に基づき、本日、関係者の方から意見聴取をさせていただいてよろしいか。ご異議はないか。 ～異議なし～ ご異議がなかったので、意見聴取の機会を設定する。関係者の方は前の席にお座りいただきたい。本日ご意見を述べていただくのは3名でよろしいか。お手元に配付された資料「教育環境審議会提出資料」をご確認いただきたい。口頭での陳述となるが、この資料を使って説明されとのことでよろしいか。それではただいまより意見聴取を始める。
末成幼稚園 PTA 会長	本日は、これまで保護者や PTA 会長会などに寄せられた意見をお伝えする機会を設けていただき、ありがとうございます。末成幼稚園 PTA 会長である。 まず、3園に共通する意見・要望についてお伝えする。これまで保護者、PTA 会長会、保護者説明会、各園からの意見陳述書などを通して様々な意見や要望が示されてきた。その中から3園に共通して示されてきた主な意見・要望を8項目に整理している。各項目の詳細をすべて読み上げるのではなく、まず8つの論点をお示しする。 (1) 公立幼児教育の今後のあり方を先に議論してほしい (2) 園児数や「15人」という基準だけで存廃を判断しないでほしい (3) 園児数を判断材料とするのであれば、まず保護者のニーズを検証してほしい (4) 「残る園の拡充」が本当に公立幼稚園の充実につながるのか検証してほしい (5) 公立幼稚園が担う教育的・地域的役割を評価してほしい (6) 特別支援の受け皿について、閉園より先に具体的な体制を示してほしい (7) 閉園後の「受け皿」が、本当に機能するのか検証してほしい (8) 保護者・地域の声を「反対意見」で終わらせず、審議に反映してほしい 以上が3園に共通して示されてきた主な意見・要望である。これを踏まえ、この後、各園からそれぞれの園の事情や、これまで保護者・PTA などから寄せられてきた具体的な意見について順に意見陳述を行う。
末成幼稚園 PTA 会長	【意見陳述】 本日は、末成幼稚園の保護者を代表して意見を述べる。単に末成幼稚園を閉園しないでほしいと願うためだけにここに立っているのではない。一番お伝えしたいのは、閉園するという結論を急ぐのではなく、本当に今閉園が必要なのかをもう一度丁寧に検討していただきたいということである。 少子化によって園児数が減っていることは保護者も理解している。しかし、末成幼稚園は現在、宝塚市の公立幼稚園の中で園児数が3番目に多い園である。もちろん、園児数だけで存廃を判断すべきだとは思わない。だからこそ、単純に園児数が減ったから

閉園するという数字だけではなく、なぜ今も末成幼稚園が選ばれているのか、どのような役割を果たしているのかまで見ていただきたい。

末成幼稚園には少人数だからこそ、一人ひとりの子どもの様子を丁寧に見てもらえる良さがある。地域とのつながりがあり、先生と保護者が顔を合わせ、子どもの成長を一緒に見守ることができる。少人数だから社会性が育たないということではない。地域との交流や様々な人との関わりを通して社会性を育てることもできる。こうした少人数の良さを、園児数という数字だけで失ってしまってよいのか疑問に感じている。

また、現在の公立幼稚園に課題があることも理解している。8月7日の説明会でも、午後保育や給食など、保護者から様々な改善の声が出た。教育委員会からも、今後、午後保育の拡充や給食サービスなどを検討していくという説明があった。私はここが重要であると思っている。課題があることと、公立幼稚園が必要ないことは同じではない。課題があるのであれば改善するという選択肢がある。なくす前に、よりよい形に変えることができないのか、保護者のニーズに応えながら公立幼稚園を選びたいと思う家庭にとってよりよい環境をつくることができないのか、その可能性を十分に検討していただきたい。

また、支援が必要な子どもたちについても大きな不安がある。説明会では、私立幼稚園への財政支援・人材確保・幼児教育センターによる巡回支援などの説明があった。一方で、人材不足や、より重い支援が必要な子ども・医療的ケアが必要な子どもへの対応については今後の課題であるとも説明された。公立幼稚園をなくした後に私立幼稚園でも受け入れてもらえるように支援しますというだけでは、保護者は安心できない。本当に必要な支援を受けながら通い続けられるのか、必要な人材を確保できるのか、支援が途中で途切れることはないのか、受入れ先があるということだけではなく、実際に子どもを支え続けられる体制が整っているのかまで確認した上で閉園を判断していただきたい。

末成幼稚園では約5年前にも、3年保育を求める保護者からの署名が提出された。しかし、その要望は実現しなかった。また当時、私立幼稚園側の上乗せが得られない限り公立幼稚園で3年保育を実施することが難しいという趣旨の話があったと聞いている。この点については、私自身がまだ十分に事実確認ができていないため断定するつもりはない。ただ、もし過去に保護者が求めていた選択肢を十分に実現できなかった経緯があるのであれば、現在の園児数だけを見て判断するのではなく、これまで保護者のニーズにどこまで応えてきたのか、その経緯を含めて検証していただきたい。

8月7日の説明会では、今年度・来年度とも通常通り園児募集を行う方向で検討していること、正式決定はまだされていないこと、追加の審議会を開催し保護者の意見陳述を踏まえ議論する方向であることが説明された。また、審議会の答申によっては制度上、存続という結論もあり得るとの説明もあった。それならばなおさら、今この時点で閉園を前提に急いで進める必要はないと考えている。

末成幼稚園 PTA 会長として、以下4点をお願いする。第1に、末成幼稚園の園児募集を拙速に停止せず、閉園に向けた手続きを急がないでほしい。第2に、閉園した場合の受け皿について、支援体制・通園手段・保護者負担などを具体的に検証し、十分な説明をしてほしい。第3に、これまで保護者や地域から提出された要望書・意見書・嘆

丸橋幼稚園 PTA 会長	願書・申し入れ書、そして1,359筆の署名を含む声を、単なる反対意見としてではなく今後の判断材料として丁寧に扱い、回答を示してほしい。第4に、閉園ありきではなく、午後保育・給食・3年保育など保護者のニーズに応じて公立幼稚園を改善・充実させ、選択肢として残す可能性を十分に検討してほしい。 私は未成幼稚園を残してほしいと思っている。しかし、それは今のままで何も変えなくていいという意味ではない。必要なところは変えて改善していい。それでも、公立幼稚園だからこそ残せるものまでなくしてしまわないでほしい。私たちはただ閉園に反対しているのではない。子どもたちにとって本当によりよい環境は何なのか、保護者が安心して子どもを預けられる場所とは何なのか、そしてこれからの宝塚市の公立幼児教育をどうしていくのか、もう一度丁寧に考えていただきたい。まず園児募集を継続し、必要な改善を行い、その結果を検証する時間を設けてほしい。その上で、未成幼稚園を今後どうするのかを改めて判断していただきたい。どうか閉園という結論を急がず、存続・改善という可能性も含めて最後まで慎重に検討してほしい。子どもたちのため、今すぐ結論を出すのではなく、もう一度考える時間をもってほしい。以上である。 丸橋幼稚園 PTA 会長である。本日は丸橋幼稚園の今後について、保護者の立場から意見を述べる。お願いしたいのは、園児数や近隣に私立幼稚園があるかどうかという一つの指標だけで丸橋幼稚園の存続・閉園を判断しないでいただきたいということである。現在この園で行われている教育の内容、地域における役割、そして子どもたちにとっての教育環境を総合的に評価した上で、改めて審議していただきたい。本日は特に6つの点についてお伝えする。 (1) 少人数だからこそできている教育について 丸橋幼稚園では少人数だからこそ、一人ひとりに目が行き届いたきめ細やかな教育が行われている。先生が答えを一方的に教えるのではなく、子ども自身が考え、自分の意見を持ち、発言する機会が多くある。また、みんなの前に立って発表する機会也非常に多くある。昨年度の生活発表会では、子どもたち自身がお互いに意見を出し合い、劇の内容や役割を決めた。休んだ子どもの代わりに演じたり、道具や背景を自分たちで移動できるよう工夫したりするなど、子どもたちが自分で考え、協力して一つのものを作り上げていた。これは少人数だからこそ、一人ひとりが活動に参加し自分の役割を持てる環境があるからこそできることだと感じている。人数が少ないという事実だけではなく、少人数だからこそ実現している教育にも目を向けていただきたい。 (2) 異年齢教育の価値について 丸橋幼稚園では異年齢での関わりがある。年長児は年中児に優しく教え手本となることで、自分たちはお兄さんお姉さんなのだという自覚を持ち、自信を持って行動している。年中児はその姿をすぐそばで見ることで、自分もこんなふうになりたいという憧れや意欲を自然に持つことができる。 加配が必要であることを理由に私立幼稚園への入園を断られ、丸橋幼稚園に入園してきた年長児がいた。私の子どもは、活発でリーダーシップに溢れたその子を見て憧れを抱き、目標を見つけ、その姿に憧れながら成長している。これは丸橋幼稚園だからこそ実現している教育環境だと感じている。
-------------------------	--

(3) 公立幼稚園を必要としている家庭があることについて

丸橋幼稚園にはこれまで多数の特性のある子どもが在籍し、加配対応を行ってきた実績がある。実際に子どもの特性を理由に私立幼稚園への入園を断られたご家庭や、定員超過による抽選で私立幼稚園を選べなかった家庭もある。

また、経済的な負担や加配対応の実績などを理由にあえて公立幼稚園を希望する家庭もある。近くに私立幼稚園があるからといって、公立幼稚園が必要なくなるわけではない。公立幼稚園だからこそ必要としている家庭が実際に存在していることを念頭に置いていただきたい。

(4) 丸橋地域から公立幼稚園がなくなることについて

丸橋幼稚園が閉園した場合、最も近い公立幼稚園は長尾幼稚園になる。しかし約2.2キロ離れており、阪急山本駅を越え、さらに坂を上った場所にある。幼児が毎日通うことを考えると、単純な距離だけではなく坂道や交通面も考える必要がある。

車での通園という案もあるが、駐車環境の整備はまだ行われておらず、車を持っているか毎日車を利用できるかも家庭によって異なる。園バスについても具体的な配置計画は明確ではない。

さらに、丸橋幼稚園周辺には自衛隊関係者の方々が暮らす団地があり、転入してこられる家庭が多くある。転入時期によっては私立幼稚園に入れず、実際に丸橋幼稚園に通っている子どももいる。そうした家庭にとって、地域に公立幼稚園があることは重要なセーフティーネットとなっている。

(5) 15人という基準について

今回15人という園児数が適正規模の基準として示されている。しかし、この数字だけをもって園の存続・閉園を判断することには慎重であるべきだと考えている。少人数だからこそ一人ひとりへの関わりや発言の機会が増えるという教育上のメリットがある。15人未満だから閉園とするのではなく、最新の研究知見や実際の教育効果、そして丸橋幼稚園で現在行われている教育内容を踏まえて、そもそも15人という基準が本当に適切なのか、改めて審議していただきたい。

(6) 地域の教育拠点としての役割について

丸橋幼稚園は保育園や小学校との定期的な交流がある。子どもたちは互いに顔見知りとなり、地域で挨拶を交わす関係ができています。また保護者に対して、小学校の生活科の学習と幼稚園での経験がどのようにつながるのかを説明する機会も設けられている。さらに、中学生のトライやるウィークの活動場所にもなっている。丸橋幼稚園は単に園児を預かる場所ではなく、保育園・幼稚園・小学校・中学校をつなぐ地域の教育拠点でもある。こうした役割は園児数だけではかることができない。

人数が少ないから閉園するのではなく、人数が少ないからこそできている教育は何なのかも考えていただきたい。この園でどのような教育が行われているのか、地域にどのような役割を果たしているのかという点まで含めて総合的に判断していただきたい。数字だけではなく、実際に丸橋幼稚園で行われている教育と、そこで成長している子どもたちの姿を見て、改めてご審議いただくようお願い申し上げます。以上である。

宝塚幼稚園 PTA 会長	宝塚幼稚園 PTA 会長である。子どもたちの最善の利益を守る観点から、地域を代表して意見を述べる。宝塚幼稚園の説明会等で主に出てきた意見をまとめたので、ご清聴よろしくお願いする。大きく4つの視点でお話する。 (1) 公立幼稚園の役割の検討を先行させるべきであるという点について 宝塚市の幼児教育の今後のあり方を考える際に、真っ先に公立幼稚園の閉園という結論ありきの議論を進めるのは論理的におかしいのではないか。本来最初に行うべきことは、今後の宝塚市において公立幼稚園がどのような役割を担うべきなのかという本質的な議論だと考える。その役割を議論・定義し、それから環境や配置についての議論をするのが本来あるべき手順である。 また、15人を切らないということ、つまり一定規模を維持する最低レベルの人数を集めること自体が目的のような施策になっていないか。単に人数のみで閉園や存続を判断することが本当に適正なのか、まずそこから検討をお願いしたい。仮に人数を判断材料とするのであれば、すべての公立園を3年保育にした上でどこに人が集まるのかを公平に検証し、その上で存続や閉園を検討すべきである。 さらに残る園への拡充という方針も示されているが、今検討されている内容では私立のサービスには到底及ばない。公立に人を呼び戻すための施策、今後公立を残していくための施策を、閉園の議論と同時に検討していただくことを強く求める。 そして、小集団での教育が子どもにとって本当に不利益なのかという点についても、感情論ではなく教育学や発達心理学などの専門的知見を踏まえて慎重に議論していただきたい。子どもの最善の利益を守るというのは、単に大きな集団に入れることではないと思う。 (2) 特別支援教育と受け皿となる私立幼稚園の実態について 市は閉園後の受け皿として私立幼稚園を挙げているが、受け皿となる私立幼稚園側も保護者の理解を得るための十分な時間が必要となるのではないか。現実として、私立幼稚園に通う保護者の声からは、加配教員が配置されたり、手厚い支援が必要な子どもが入園したりすることで園の雰囲気が変わることに対して困惑するという声もある。子どもにとっても保護者にとっても、周りの理解が得られない環境で過ごすことは本当に辛いものになる。こうした摩擦から私立から公立へ転入してきた事例が実際に存在している。宝塚幼稚園の周辺には私立幼稚園が多く存在しているが、支援が必要な子どもを積極的に受け入れている園は現状かなり限定的である。 特別支援の関係において、私立幼稚園の現状がどの程度市の方針に協力的なのか、具体的には市の研修会への参加率や連携を図るための準備の進捗状況などを含め、これからどのような見込みになるのかを市として明確に示していただきたい。今年の入園児の中にも、私立への入園を断念して公立に入園してきたご家庭が複数いる。私立園側が費用の問題や体制面の問題で受入れを困難とするという事情も理解できるが、加配教員をつけるという予算上の措置だけで子どもにとって十分な環境といえるのか。 閉園を決定するよりも、まずは傷つく子どもが出ない十分な受入れ先と体制を用意することの方が先であるはずである。また、私立への補助金制度が持続可能なものであるのかも大きな疑問である。これまで加配はつけずに私立で通っていた保護者から
-----------------	--

新たに加配の申請があった場合なども含めて、市の財政や予算面に問題はないのか、持続性の観点からも明確な説明が必要である。

(3) 保護者の経済的負担と公立幼稚園が持つ特有の安心感について

宝塚幼稚園が閉園となった場合は周辺の私立幼稚園が受け皿となる。これは閉園後も別の公立幼稚園を選べる場合とは状況が全く異なる。公立を選び続けられる方法をまずは絶対に検討すべきである。また、保育料が無償化されたとはいえ、私立と公立とでは、入園料・制服代など初期の実費負担だけでも、10万円ほどの差額が生じる。さらに、年間を通じて保育料以外の雑費の差額も多く発生する。公立を選択せざるを得ない家庭、または選択したい家庭に対して、この費用面での大きな負担増はどのように対応されるおつもりなのか。

また、宝塚幼稚園の周辺には児童養護施設である「ひかりの家」もある。特別支援教育という観点以外にも、経済的・環境的な支援が必要な子どもたちが確実に存在し、実際に在籍もしていた。公立幼稚園は入園時に私立のような選考は行わない。保護者もそのことを理解して入園しているので、様々な家庭環境や特性を持つ子どもたちに対して周囲の保護者からの理解が得られやすいという土壌がある。子どもだけでなく、親を含めたインクルーシブ教育が自然な形で実践される貴重な場所となっている。

(4) 宝塚幼稚園が地域で果たしている役割とその立地条件について

宝塚幼稚園は、子ども家庭支援センターが管轄する育児サークル「いちごみるく」の活動場所としても機能している。幼稚園と近隣の宝塚小学校との連携だけでなく、乳幼児期から途切れることなくつながる連携環境がすでに整っている。教育と福祉の両面から、地域の子育ての拠点の役割をすでに果たしている。

さらに宝塚幼稚園は阪急清荒神駅・宝塚駅、JR 宝塚駅のいずれからも近く、路線バスのアクセスも非常に良好である。駅から園までの道のりも平坦で、図書館などの公共施設も近く、非常に恵まれた立地条件にある。将来的に市内の公立幼稚園が集約・減少していくとすればなおさら、市内全域から圧倒的に通いやすいところにこそ園を残すべきではないか。単に周りに私立園が多いからという理由で対象を選ぶのではなく、子どもにとって通いやすい場所かどうかということも最優先の判断事項にいただきたい。宝塚幼稚園としての意見は以上である。

続いて、配付資料の「5. 審議にあたり特に検討していただきたい事項」について改めてお伝えする。

- ・閉園を前提とせず、存続・改善を含む複数の選択肢を比較検討すること。
- ・園児数だけでなく、地域性、教育的役割、特別支援、幼小連携、家庭・地域を支える機能等を評価項目に含めること。
- ・「15人」という適正規模基準について、その根拠と妥当性を改めて検証すること。
- ・小集団による教育が子どもの育ちに与える影響について、専門的な知見も踏まえて検証すること。
- ・3年保育、午後保育、保育時間の延長、給食等を実施した場合の園児数・保護者ニーズへの影響を検証すること。

	・改善策を実施した場合の潜在的需要について、希望調査等も含め、実際の保護者ニーズを把握してから存廃を判断すること。 ・閉園後の受け皿について、受入可能人数だけでなく、支援体制、人員配置、通園、安全、費用等を具体的に検証すること。 ・公立幼稚園を選択する家庭の多様な事情を踏まえ、短時間勤務、きょうだい、持病、介護等を含む家庭への影響を検証すること。 ・私立幼稚園を受け皿とする場合、特別支援の受入れ状況、加配、人材確保、保護者の理解、財政支援の持続可能性等を具体的に検証すること。 ・各園の存廃を判断する際には、園児数や地理的条件だけを基準とせず、保護者や現場の声、教育環境、地域とのつながり、保護者ニーズ等も含め、多面的かつ同一の観点から各園を比較・検証すること。 ・これまで提出された意見・要望について、審議における取扱いと反映状況を明確にすること。 ・今後の募集・閉園時期について、保護者の進路選択に十分配慮し、拙速に決定しないこと。 私立幼稚園を否定したり行政課題を無視したりするわけではない。人数が減ったから閉園というのではなく、まずは課題を改善しニーズを確かめた上で今後のあり方を決めるという手順を踏んでいただきたい。結論を急がず、子どもたちにとって何が最善かを起点に慎重な検討をお願いする。以上である。
会長	ありがとうございました。ただいま陳述者の皆様からいただいたご意見について、審議会の委員の皆様からご質問があればお願いします。意見については、先ほど事務局から説明があったように、否定する意見というのは当事者を前にして出しにくいことも懸念される。会長としてもそのように考えるので、意見については改めてメールを通じて意見表明をしていただき、それを学識の方で取りまとめ、今後どう反映するかを検討したい。陳述者の方々に対するご質問をお願いします。
委員	丸橋幼稚園にお伺いしたいが、異年齢クラスを導入されているとのことだが、実施状況などについてもう少し教えていただけるか。
丸橋幼稚園 PTA 会長	ご質問ありがとうございます。現在丸橋幼稚園は年長児が7名、年中児が4名で、園児数は全員で11名という状況である。皆同じ教室内で過ごしている。ただし、子どもの発達段階において、グループワーク等、できることとできないことがあるため、その場合は年長・年中に分かれてグループワーク等を行っている。それ以外の活動については、年長・年中関係なく一緒になって話し合い自分たちで決めたりする場が数多く設けられている。
会長	ありがとうございます。他にご質問はあるか。

委員	ありがとうございます。今回から委員となったので簡単に自己紹介する。宝塚市 PTA 協議会の今年度会長を務めている。本業では法律家でもあるので、前回の審議会を傍聴させていただいて、若干適正手続に欠ける部分があるのではないかと考えており、関係法令等に照らして適正な議論をすることによって、適正規模・適正配置を考えていくべきだと考えている。進め方についても意見があるが、メールでの意見提出については、反対意見を申し上げにくい方がメールで伝えるのはよいと思うが、公開の場できちんと議論をするというのが本来のあり方だと思う。当然にメールで審議することにはならないと明確にしておきたい。以上を踏まえて質問する。 私立幼稚園に入園を断られてしまったという例があるとのことだが、プライバシーに関わるものなので可能な範囲で、どういう事情で私立幼稚園に入れなかった事例があるのかを教えていただけるか。
宝塚幼稚園 PTA 会長	宝塚幼稚園で聞いているところをお伝えする。発達の支援が必要なお子さんが断られたという事例が一つある。宝塚幼稚園に来たら伸び伸びと生活できるようなお子さんが断られてしまうというケースがある。理由としては手がかかるからだと思うが、私立幼稚園では「お子さんにとってよくないのではないか、幸せになれないのではないか」というようなニュアンスでお断りされたと聞いている。また、別のお子さんについては、受け入れることは可能と言われたが、そのお子さんがおとなしく発達がゆっくりなため周りのお子さんに特に迷惑をかけることはないとして受入れを示唆された。ただし、そのお母さんは「このままこの子を入れても放っておかれるだけではないか、その子にとっての育ちにはならないのではないか」という判断で宝塚幼稚園を選んで入ってこられた。そのお子さんは集団の中でなかなかゆっくりなところもあったが、一生懸命自分のできることを見つけたり友達と協力したりして、すくく成長したという実感をお母さんも得られていた。また、日本語があまり得意ではないお子さんについて、保護者が外国の方で日本語が話せないという理由で「入ってきても最初の時点では日本語がしゃべれない」として断られたという事例も聞いている。個人的な情報になるので言える範囲でお伝えするが、私立幼稚園の見学に行った際にお子さんが椅子にゆっくり座っていられなかった場面を先生が見られたときに「ちょっとうちでは難しいと思います」という旨を伝えられた保護者の方が実際にいる。以上である。
会長	ありがとうございました。委員、よろしいか。他にご質問はあるか。
委員	引き続き質問する。先ほど宝塚幼稚園 PTA 会長から、私立から公立に移らなければいけなくなった事例があったとのことだが、少しわかりにくかったので、可能な範囲で教えていただけるか。
宝塚幼稚園 PTA 会長	個人的なことがわからないようにお話しする。年長に上がるときに転入してきたお子さんがいて、もともとは近くの私立幼稚園に通っていたが、年長になるとみんなで一緒に鼓笛隊のような活動をするため、年中のうちから一緒に練習を始めていくところ、どうしてもそこに入れなかった。そうすると輪から外れてしまうため「続けるのは厳しいので

会長	はないか」と言われたということもあるが、お母さんの気持ちとして、自分の子どもが輪に入れないことに対して周りのお母さんたちに「あの子だけ変だよ」というようなイメージで見られてしまうことへの精神的なプレッシャーを感じて、私立幼稚園にいられないという状況になり、宝塚幼稚園に年長から転入されてきた方がいる。やめてくださいと言われたのか自分で選択したのかまでは定かではない。 他にご質問はあるか。 今、市立幼稚園の保護者の方々から公立幼稚園の役割・意義・特色・取組等について、また私立幼稚園の受け皿に関するご意見が出されたが、本日この審議会のメンバーとして私立幼稚園の当事者であられる委員がお二人お見えなので、私立幼稚園の立場からのお考えがあればお聞かせいただけるか。
委員	私立幼稚園連合会の会長を務めている。本日は保護者の皆さんからのご意見を賜り、いろいろなことを学ばせていただいた。宝塚市内に、認定こども園になられた園も含めて私立幼稚園由来の幼稚園・認定こども園が14園ある。各園はそれぞれの歴史や地域の中で、それぞれの教育方針・建学の精神を大切にしながら運営している。公立幼稚園と私立幼稚園を対比させて議論が進められるところはあると思うが、私立幼稚園は一体ではなく、それぞれの園の状況や現状は様々であるため、単純に公立か私立かという対比はなかなか難しいところがある。それを前提にすると、公立幼稚園で抱えられている問題、主に少子化の問題・園児数の減少・保護者ニーズの多様化というところは私立幼稚園でも同じような課題を抱えている。連合会としては、市との関わりや県との関わりの中で、要望や現状の情報交換などを行っている。 今回の審議会での議論については、私立幼稚園連合会としての統一した意見の集約にはまだ至っていない。様々なお話があったが、この審議会の議論の進め方も含めて、今後の市の幼児教育・保育のあり方について、もう少し総合的な観点で議論をしていく必要があるのではないかと、また各対象となっている公立幼稚園がどのような役割を担ってきたかをしっかりと評価する必要があるのではないかとという点は、私立幼稚園としても同じような意見として考えている。
会長	ありがとうございます。委員、いかがか。
委員	私立幼稚園から来ている。私立幼稚園を断られたというケースは、実際にうちでもそういうところがあると感じている。私立幼稚園は本当に園によって様々な教育実践を行っており、自由保育・一斉保育を中心にされているところ、集団での設定保育に力を入れているところ、行事ごとに力を入れているところなど、それぞれ特色を持って幼稚園教育を行っている。例えば、うちでは入園時に面接をさせていただき、お子さんの様子を見たりおうちの方からお話を伺ったりしながら、できるだけ引き受けたいという思いはあるが、その子がうちの幼稚園に入ったときに本当にその子らしく伸び伸びとやっていけるかどうかが一番に考えるところである。集団生活の中で十分に目が行き届く場面ばかりとは限らないため、けがやトラブルがないようにということが一番に配慮する中では、

	限られた人手の中でやっていかなければならないことなので、難しいという場面がまれに出てくることは事実である。幼稚園に受け入れた子どもについては卒園まで、うちでも加配と言われる先生を1人配置して子どもたちを見てもらうという形をとっているが、私立なので経費面のことも大きく関係してきて難しいところがあるのが正直なところである。3つの幼稚園の保護者の方のお話を伺っていて率直に感じたことを言うと、委員がおっしゃったように、この状況でまだ閉園という話はどうかという正直な感想がある。保護者の方が公立幼稚園に対して様々な願いを持っておられることは非常に大事だと思った。私自身も公立の小学校・中学校に長く勤めてきたので、公立に対してそういう思いで支持していただけることは、それぞれの公立幼稚園が今まで取り組んでこられた結果だと思う。そういうところもすごく大事にしていくべきではないかと感じている。以上である。
会長	ありがとうございました。市立幼稚園の保護者の方々からいろいろのご意見があったが、それに対する現時点での市教委の考え方について説明をお聞きしたいので、事務局からよろしくお願いします。
事務局	ありがとうございます。途中で子ども議会に出席していたため、記載されている書面でしかお答えができないが、もし追加でお話があった場合はご指摘いただければ随時お答えしたい。 まず、3園に共通して示されてきた主な意見・要望の大きなテーマである (1)「公立幼児教育の今後のあり方を先に議論してほしい」について 園児数の減少については、地域の幼児人口の減少であったり、保護者の就労状況の変化に伴う保育所志向・長時間保育の需要の高まり等を反映したものであり、市立幼稚園だけではなく私立幼稚園も共通して抱えている大きな課題である。この幼児人口の減少という現実を考えると、市立幼稚園のこれまでの取組だけでは、特色を生かしたとしても、十分にこの園児数の減少を克服できるものではないと考えている。就学前人口の減少や保育所志向がこのまま続けば、0歳児から3歳児までの現在の就学前人口を見れば、この3園の就園児は1学年が10人を切るということになる。すでに切っているところもあるし、切っていないところも近い将来10人を切ることが概ね予測される。これまでの幼稚園教育審議会の基本方針の中では1クラス20名以上が望ましいとされており、この数値は10年近くが経過したとしても5人や3人になるというわけではなく、一定数はやはり必要であろうというところは大きく変わっていないと思う。そういう時代の変化を勘案したとしても、今の園児数の減少は今後増加に転じることはないことから、一定の判断は必要ではないかと考えている。 3年保育・給食・長時間保育・園バスなどの保育サービスの充実については、これはかつて公立幼稚園の中でも議論してきたことである。3年保育については、過去から宝塚市だけではなく全国的に私立が3年保育・公立幼稚園が2年保育という歴史がある。かつて私立幼稚園が2年保育のときには公立幼稚園が1年保育であり、そうした差をつけながら取り組んできた経緯がある。給食・長時間保育・園バスについては、教育委員会としても幼稚園としても一定の考え方があってこれまで来ている。園バスよりも、

	歩いて通園することによって交通ルールを学ぶ機会になったり、地域の中を歩いて登園することの良さがある。長時間保育ではなく短時間保育であることの意義は、親子の時間をしっかりと取ってほしいという思いから、週に3回は午後から保育するが週2回はしっかりと親子の時間を取ってほしいという考えで週2回の短時間保育を実施してきた。給食についても、この時期にしか手をかけることができないこの時間を大切にしてほしいという思いから、給食ではなくお弁当にしたいという話を過去に公立幼稚園長から聞いたことを記憶している。サービスを提供するというよりも、こうしたことに公立幼稚園の意義があったと聞いている。ただ、時代の変化とともにアップデートしていかなければならないところはあろうかと思うので、今回の諮問事項2でも具体的に提案させていただいており、そうした視点も踏まえながら検討しなければならないと考えている。
会長	離席中に、丸橋幼稚園が閉園となった場合、最寄りの公立幼稚園は長尾幼稚園となり、2.2kmの距離で、徒歩通園は厳しいとの意見があったのでお伝えしておく。それに関するお考えがあれば述べていただきたい。
事務局	残る公立幼稚園に通えるように、限定的ではあるが、車通園を可能にする仕組みを考えたいと思っている。全員を対象とするのではなく、遠い方への限定的な対応にはなるが、具体的には長尾幼稚園でいうと、既に駐車場として活用している場所を継続して利用し、その他の園についてはドライブスルー方式等を検討していきたい。
会長	車がないご家庭もあるとの指摘もあったがどうか。
事務局	公立幼稚園でなければという特殊な事情が私立幼稚園とも協議した上で発生した場合には、補助等含め、検討すべき課題であると認識している。ただ、基本的には、公立に限らず、私立も含めて幼稚園の就園を検討していただくというのが、これまでも本市の姿勢であるので、ご理解いただきたい。
会長	承知した。続きをお願いする。
事務局	(2)「園児数や15人という基準だけで存廃を判断しないでほしい」について 1クラス15名以上という園児数の規模を示したことはこれまでない。これまで適正規模とされたのは1クラス20名程度であり、専門家の間でも議論があるところだが、最低でも1クラス15名から20名以上が望ましいとされている。過小な園児数での教育の弊害、友達関係の固定化、クラス替えができないという問題、集団活動困難の恐れ、社会性獲得困難の恐れなどの教育効果の視点から、1クラス当たりの園児数に係る適正規模が存在するのは事実であるが、少人数教育のメリットを否定するものではない。問題は、過小な園児数に対してやはり配慮が必要だということである。一定の規模があって、時には少人数の対応ができる、あるいは縦割りができる環境が本来は望ましいと思う。一定の規模の中で少人数の取組ができればよいと考えている。

会長	15名以上という数字は審議会から出たものでないが、どこから流れたものであるのか。
事務局	15名という数字については、初回の資料で、仮に検討するときに「15人以下の園が宝塚市には4園あるのでこれを対象として検討したい」という数字として15人という数字を用いたため、15人が一定の基準かのような誤解を招いてしまった。事務局の説明が十分でなかったことについてお詫びする。
会長	承知した。続きをお願いする。
事務局	(3)「園児数を判断材料とするのであれば、まず保護者のニーズを検証してほしい」について 今回の諮問事項にある市立幼稚園の機能充実は保護者ニーズに対応したものであるとともに、市立幼稚園の園児も私立幼稚園が現在提供している教育内容を等しく受けられるようにすべきという公平の観点も当然検討されるべきと考えている。仮に一律に3年保育・給食・午後保育の拡充を実施したとしても、園児数が維持されるとはなかなか考えにくい。3年保育を実施している仁川幼稚園や長尾幼稚園でも園児数は大きく減少しており、私立幼稚園でも大きく園児数が減少している園があるため、ここだけで園児数が減少したものではないと思っている。 主たる原因は少子化の影響と就学前児童の大幅な減少、保護者の就労状況の変化による保育需要の増加によるところが大きく、市としても保育施設の建設を進めてきたことから保育所への就園者数が増え、その分幼稚園の就園者数が減少したというところが大きな要因ではないかと思う。 ただ、子どもの獲得という観点では、同じ幼稚園というカテゴリーの中で私立幼稚園と公立幼稚園、あるいは公私立幼稚園同士の園児の取り合いにはならないような配慮は一定必要ではないかと思っている。そうしたことも考えながら幼稚園運営が必要ではないかと考えている。 (4)「残る園の拡充が本当に公立幼稚園の充実につながるのかを検証してほしい」について 宝塚市の教育における市立幼稚園の役割については、子どもの視点に立った私立幼稚園との連携の強化の必要性を踏まえながら、今回の審議会でもご審議いただきたいと考えている。ご指摘の通り、まさに諮問事項にある事項についてご審議いただいたことを踏まえて、市としても具体的に検討していきたいと考えている。 (5)「公立幼稚園が担う教育的・地域的役割を評価してほしい」について 市立幼稚園が担ってきた・担っている役割を過小評価しているものではない。市立幼稚園の果たすべき役割の重要性は認識した上で、しかし幼児数が今後も減少していく中での幼児教育のあり方を考えると、私立幼稚園とともに教育を担い合っていくことが

	重要であり、そこを考えなければならないと考えている。そのための環境整備を教育委員会としても真剣に考えていかなければならない。 現在市立幼稚園が果たしている役割は存続する市立幼稚園すべてにしっかりと継承されていくべきであるし、私立幼稚園にも果たしていただきたい。私立保育所の方にもお願いしていかなければならないという視点で考えれば、私立・公立あるいは保育所・幼稚園の区分を超えた就学前教育の拡充が非常に必要ではないかと考えている。早急に対応していかなければならないと考えている。 (6)「特別支援の受け皿について、閉園より先に具体的な体制を示してほしい」について 当然答申の中にも盛り込んでいただきたいと思っている。今後の市教委の判断として、特定の園を指して検討していくが、そのことによる特別支援教育の受け皿として市立幼稚園だけではなく私立幼稚園がこれまで以上に対応できるよう検討する必要があると思う。ただ、そうした対策を先に体制として示すことはなかなか難しいところがある。そうすると、公立幼稚園の関係者よりも先に私立幼稚園側に打診をしていかなければならないということになる。市が一定支援するので配慮の必要な子どもを受け入れてほしいという話を並行してやっているが、しっかりと詰めていかなければならない。 一方で、公立幼稚園のことを公立幼稚園以外に先にお話しすることによる弊害もある。そのバランスが非常に難しいところである。連合会の会長とはしっかりと打ち合わせをしつつも、先に市立幼稚園側に情報を十分に流して状況を確認しながら、しっかりと話を構築していかなければならないという手順の中で、市立幼稚園側に先にお話しが入っていたということである。私立幼稚園側の意向も確認しながら進めており、最終的にはしっかりと支援する形で私立幼稚園側と連携を図っていきたいと考えている。 ちなみに私立幼稚園では多くの配慮が必要な子どもたちを受け入れている。前回もお答えしたが、今年の小学校1年生で特別支援学級に入っているお子さんのうち、22人が公立幼稚園出身、私立幼稚園出身が35人いる。経営面で加配をつけることができない中、担任が悪戦苦闘しながら園長が補助に入りながら支援しているが、公立では加配あるいは介助員をつけることができる。こうした措置を私立幼稚園側にも支援することができれば、宝塚市内どここの施設に就園しても等しく保育が受けられる関係をしっかり作っていくべきだと思う。そういう責務が教育委員会にあると考えている。
会長	ちなみに、高田部長が席を外されている間に、実際に私立幼稚園を断られて公立に來ているという事例のお話もあった。お知らせしておく。では続きをお願いする。
事務局	(7)「閉園後の受け皿が本当に機能するのかを検証してほしい」について これも先ほどの答えと同じだが、総合的に加味して検討するのはなかなか今の段階では難しい。閉園するときには、在園された方には最後まで卒園していただけるような時期の設定をしていきたいと思う。宝塚市内ではかつて市立幼稚園が最大で21園あったが、少子化の影響で順次閉園して現在の7園になっている。その過程で、例えば逆瀬台小学校の横にあった逆瀬台幼稚園は今福祉施設に変わっているが早くに閉園し

	ている。少し山手から下ったところの西山小学校の敷地内には西山幼稚園があったが、そこも最近閉園している。さらに逆瀬川駅に近い地域の宝塚第一小学校にも幼稚園があったが閉園している。良元小学校や末広小学校にも幼稚園があったが閉園している。この地域ではほとんどの子どもたちが私立幼稚園か保育所に通っている実態がある。公立幼稚園の就園者の住所を見ても、第一小学校区から宝塚幼稚園に行かれている方は数名いるが、それ以外はいない実態がある。就学前施設としての受入れについては、こうしたことを考えると、その中で一定完結しているということが確認できる。私立幼稚園もしっかりと受入れがこの地域においてはなされているのだろうと思う。 通園に係る方法・費用・支援については個別に対応することがあっても、少数で概ね問題なく今は対応されていると思う。就学前の時期を過ごすための十分な環境を整えるためには、課題のある方についてはしっかりと個別に対応しながら就園していただければと思う。市立幼稚園を閉園した一時期はある程度の不安や混乱もあろうかと思うが、中長期的に振り返ってみれば一定落ち着きが見えていると考えている。 (8)「保護者・地域の声を反対意見で終わらせず、審議に反映してほしい」について これはその通りであり、今回の審議会の中で意見陳述の場が実現したので、しっかりと議論いただけたらと思う。反映するかどうかはこの中で議論いただけることかと思う。 ただ一方で、市立幼稚園の保護者の視点、私立幼稚園側の視点、保育所という視点、いずれの子どもたちも95%の子どもが市立小学校23校に入学してくることを考えれば、教育委員会としては等しくこの子どもたちに対して一定の教育のあり方も含めて支援していかなければならないという視点を持っていきたい。また、行政である以上、納税者という視点も一つ必要ではないかと考えている。そこは少しバランスもあろうかと思うので、そうした視点でもお考えいただければと思う。以上である。
会長	私は専門が財政だが、今回の審議において敢えて財政の話を一言も言っていない。それは会長として、財政がこうだからということは審議会で考えることではなく市がお考えになることなので、そのようにご理解いただきたい。 また、末成幼稚園・丸橋幼稚園・宝塚幼稚園の各幼稚園から個別に要望事項が出ているが、これに関して何かあるか。これまでの総括的な説明で良いか。
事務局	末成幼稚園についての (1)「園児数だけで評価できない末成幼稚園の位置付け」について 当然、園児数だけで評価すべきでないということは理解している。ただ、一定やはり園児数で評価するところも出てくるかと思う。仮に3番目に多い幼稚園であっても、そもそも全体の園児数が少ない中での比較であることも認識する必要があるかと思っています。園児数を維持している、あるいは維持できるような条件がある場合には、人数ではなく増えるという発想の検討も必要かと思うが、今の少子化の中では多少の住宅開発があったとしても子どもの減り方が少し穏やかになる程度で、維持あるいは増えるとい

う実態が宝塚市の中ではなかなかない状況なので、近い将来さらに園児数が減っていくという視点で、一定この人数については検討する必要があると思う。

一方で、公立幼稚園としてのこれまでの研究成果も含めた教育の蓄積というものをそれぞれの公立幼稚園はしっかり持っていると思う。特に人事異動によっていろんな経験者がこの幼稚園に赴任してきて、それぞれの良さがまた蓄積されていくという面では、公立幼稚園が担ってきた教育というものは非常に重要であろうかと思う。

ただ、95%の子どもが市立小学校に就学することを考えれば、この市立幼稚園に蓄積されたことをわずかに残った市立幼稚園の子どもにだけ提供するのではなく、広く私立幼稚園の方にも投げかけていき、保育所の方にも提供していくことで、市全体の幼児教育が見直されていくべきだろうと思う。そういう意味では教育委員会としての役割は重要だと思うし、公立幼稚園の果たす役割というのはそういう意味では今後も継承されるべきだと考えている。

(2)「幼小連携・地域とのつながり」について

小学校との連携、保育所と幼稚園・私立と公立という視点の連携は非常に重要だと思う。今も保育所・幼稚園・小学校・中学校、地域で丸ごと連携していこうという取組を幼児教育センターが中心に担っているが、その中心が公立幼稚園という位置付けになってきている。今後、公立幼稚園が拠点となって少し広い地域をカバーすることになるかと思うが、私立幼稚園や保育所の方にも声をかけ合って、小学校にしっかりつながっていく、あるいは横の連携を強化していくということは、教育委員会として十分に職責を果たしていきたいと考えている。

(3)「3年保育についてはこれまでの経緯と潜在的需要を検討してほしい」について

3年保育については、幼児教育の基本は3年保育であることから早期に3年保育をしていかなければならないというところは共通した理解だと思うが、子どもたちが減っていく中で、市が事業を拡大とするのは公私のバランスも含めて少し慎重にならざるを得ないと思う。これは就学前という分野だけではなく義務教育後の高等学校も同じ状況だと思う。幼稚園・高校・大学も公私が連携してきたところがあるので、バランスを一定考える必要があろうかと思う。

ただ、今後公立幼稚園が整理されていく中においては3年保育の実施園が特定されてしまうため、そういった場合には機会均等・公平性という視点から公立幼稚園においても3年保育の一定の拡充が必要ではないかと思うので、しっかりと連携して協議をしていきたいと考えている。3年保育を公立側が否定しているものではなく、今後検討していきたいと思っている。

(4)「これまでの保護者・地域の声を判断材料として扱っていただきたい」について

当然これは重要な地域のご意見であり、要望書・意見書・嘆願書をいただいている。未成幼稚園については署名もいただいているので、真摯に受け止めながら検討を進めていかなければならないと思っている。

会長	次に丸橋幼稚園についての (1)「少人数・異年齢教育の価値を評価していただきたい」について 少人数による保育は非常に重要であり、これを否定するものではない。しかしながら、少人数の幼稚園ではそれが限界になってくることも事実である。一定の規模で保育ができなくなってくるということであり、例えば運動会でも競技が成立しにくくなったり、いろんな遊びの中でも制限されることがある。ただ、今これらの幼稚園では工夫の中でその少人数の利点・メリットを活用しながら教育効果を維持しようとしているが、やはり一定の規模がある中で時には少人数での保育・縦割りというのは効果的だと思うが、少人数だけでは集団としての教育に多少の課題が残るのではないかと思う。 (2)「特別な支援を必要とする子どもを受け入れてきた実績を評価してほしい」について これまでの蓄積が隣接する小学校への引き継ぎというところでは確かに細かく取り扱ってきた。これも先ほどから申し上げているように、公立幼稚園だけのメリットにするのではなく、私立幼稚園あるいは私立保育所においてもそうした連携ができるような仕組みを作っていかなければならないと考えている。 また、就学前から小学校に入って義務教育課程に入ったときに所管も変わってくることから対応が大きく変わってきている。そこまで教育委員会の縦割り行政の中の弊害も今回気づくことができた。就学前から小学校にどう引き継いでいくのか、一本化した対応について今後研究が必要ではないかと思う。特に療育センターに通わなければならないような重度のお子さんについては慎重に取り扱うところもあるので、教育委員会との連携を軸に置いて今後対応していきたいと思う。 私立幼稚園から断られて公立幼稚園にというお話については、件数としては多くないが事実としてあることも教育委員会では認識している。例えば重度のお子さんについて加配教員がない中で私立幼稚園が受けていくことは相当ハードルが高い。公立幼稚園では加配あるいは介助員、場合によっては看護師を1人につけながら対応しているが、これは公立でなければならないというところがあった。こうしたことも含めて私立でどんな対応ができるのかを今後検討していかなければならない大きな課題であると考えている。 (3)「通園環境・地域的役割を継承してほしい」について 車の利用について、どうしても公立幼稚園でなければならない場合には個別に判断して寄り添って対応していきたいと思う。具体的には市立幼稚園への入園に関するご相談や幼児教育センターへの個別相談をいただければと思う。ただ、それ以外の方については私立幼稚園も含めて幼稚園への就園をお考えいただければと思う。 席を外している間に丸橋幼稚園の方からお話があったことで、事実確認をお願いしたい。丸橋幼稚園に通っているお子さんは従来、自衛隊の宿舎のお子さんが多かったとお聞きしているが、自衛隊の宿舎が閉鎖されるというのがあったと思うが、それは事実か。
----	---

事務局	すでに官舎を一部閉鎖している。民間に売却して再開発するという話は現時点でない。民間に売却されたわけではないが、官舎を集約していく中で古くなっているところがあるため、一部官舎が残っているところの建て替えは計画されている。
会長	承知した。事実関係の確認だけしかかった。
事務局	多くの官舎はもう閉鎖されてしまっているという状況である。
会長	ありがとうございました。宝塚幼稚園に関して、お願いします。
事務局	(1)「教育・福祉の両面を担う地域の子育て拠点として評価してほしい」について 本市の就学前教育・保育の重要な財産として受け継がれていくべきであり、しっかりと取り組んでいきたい。幼稚園の取組については教育委員会としても評価しているところである。 (2)「私立幼稚園が受け皿となる場合の費用負担を検証してほしい」について 保育料が無償化されていても入園料や制服代等の費用で幾分かの費用負担が生じてくるというご意見である。公立幼稚園でも、かつて保育料を徴収しているときには入園時の費用や月々徴収する学用品費代などがあった。私立幼稚園でも同様にあり、徴収額は比較的私立の方が高い傾向にあったことも事実である。令和元年10月から保育料の無償化によって、最も高かった保育料という保護者負担がなくなっている。ただしそれ以外の費用については残っている。 これまで保護者の経済的な負担の対象が保育料であったことから、保育料が無償になったことで保護者の負担が大きく軽減されたことから、現在、保護者負担の軽減について特に市あるいは県の方で対策を考えているわけではない。ただ、その費用の実態も含めて改めて検証する必要があるかと思うので、どの程度の費用負担があるのかも含めて最新の把握に努めていきたいと思っている。その上で検討が必要かと思っている。 (3)「特別支援の受入れ体制を、閉園より先に具体的に示してほしい」について これも先ほど言ったように、どちらを先に説明するのかというところでなかなか難しいところがあって、具体がない中で幼稚園側に説明したことがきっかけで具体的なところをまだ示していないということだが、私立幼稚園側とは水面下で方向性を確認しながら進めているところである。市としてもその財源は新たに生まれてくるものではなく、あくまでも公立幼稚園でも配慮が必要な子どもを受け入れれば加配教員あるいは介助員をつけており、現在宝塚市内7園で17人の加配教員あるいは介助員をつけている。こうした先生方も幼稚園が整理されると減ってくる。そうした財源を私立幼稚園側に費やしていきたいと考えているので、この議論をバランスよく進めながら並行して協議を進めているところである。

	この審議の過程でご審議いただいて教育委員会として方向性を策定する中で、その支援策というものは明示をしていきたいと考えている。 (4)「公立幼稚園だからこそ受け入れる多様な子どもたちの環境を評価してほしい」について 宝塚幼稚園にお話に行ったときに出席されていた保護者の方からのご意見でもあったが、海外から宝塚に移ってこられた方が言葉の壁がある中でなかなか就園する先にお困りであったところ、宝塚幼稚園が受け入れてくれたという感謝の言葉をいただいた。現在長尾幼稚園でも3歳児・4歳児・5歳児で1人ずつ受入れをしている。私立幼稚園でも受け入れているということを聞いており、私立の13園に聞くことができたが、その中の回答では2人の方を受け入れているとのことである。公立幼稚園と同じようにジェスチャーを交えたコミュニケーションやスマートフォンの翻訳機を使いながらやりとりをされているとのことである。保育所の方でも日本語でのコミュニケーションがなかなか難しいようなお子さんを受け入れているということがある。 ただ、私立幼稚園と公立幼稚園の違いとして、公立幼稚園には日本語サポーターというものがついている。月に1回か2回程度なので語学を習得するまでの配置にはなっていないものの、心配事があったときの相談も含めて日本語サポーターがついているという仕組みがある。これも当然公立だけのメリットにするのではなく、私立幼稚園側にもどういった支援ができるのかというのは今後大きな課題であろうかと思う。 そうした意味で考えると、多様な子どもたちの環境については私立幼稚園側も含めてしっかりと検討していかなければならないと考えている。 (5)「将来の公立幼稚園の配置を考える上で通いやすさを評価してほしい」について 「宝塚幼稚園は阪急清荒神駅あるいは宝塚駅、JR 宝塚駅、バスの路線もあって交通の利便性がある。」ここは参考にしていきたいと思う。ただ、公立幼稚園を残すことを考えたときにはやはり園児数も関係してくるので、そことうまくバランスをとりながら検討していかなければならないとは思いますが、審議会の方からもご意見をいただければと思っている。 3園については以上で、「5. 審議にあたり特に検討していただきたい事項について」も答えた方がよいか。
会長	続けてお願いします。
事務局	承知した。 (1)「閉園を前提とせず、存続・改善を含む複数の選択肢を比較検討すること」について 最初に閉園ということを前提に検討したものではなく、今後も続く幼児人口の減少、市立幼稚園を選択する保護者の比率が低くなっていること、保護者の保育所志向の高

まりや教育効果などを総合的に検討してきた結果であると思う。審議会でもぜひご議論いただきたいと考えている。

(2)「園児数だけでなく、地域性、教育的役割、特別支援、幼小連携、家庭・地域を支える機能等を評価項目に含めること」について

当然、園児数だけで判断するものではなく、その他の要素も含めて検討していかなければならないと思う。園児数だけで言えば今回の検討対象となる3園以外にも閉園対象となるところがあるが、そうしていないのはそうした教育的役割や特別支援のあり方なども含めてのことであるのでご理解いただきたい。

(3)「15人という適正規模基準について、その根拠と妥当性を改めて検証すること」について

15人以上というのは一つの目安として出したものである。ただ、これまでの審議会では20人以上が望ましいとなってきたが、今回の議論の対象となっている3園については将来的にさらに減少して、すでに12人以下となっているところもあるし、10人以上のところも近い将来10人以下になってくることが予測されているところなので、この15人は検討する段階での一つの数値ということになる。

(4)「小集団による教育が子どもの育ちに与える影響について、専門的な知見も含めて検証すること」について

小集団教育のメリットを否定しているものではなく、問題はそれが継続していること、過小な小集団になろうとしているという現実問題というところに着目している。ある園の園長から聞いたが、雨の日で園児が休んでしまったとき、そのクラスには園児は1人だけだったという現象もある。常時小集団であることの議論が必要ではないかと考えている。

(5)「3年保育、午後保育、保育時間の延長、給食等を実施した場合の園児数・保護者ニーズへの影響を検証すること」について

長尾幼稚園でもなかなか増えていないということであり、3年保育を実施しただけではなかなか難しいだろうということと、私立幼稚園も全体的に園児が減っていることを考えれば、給食・長時間保育があったとしても園児数が右肩上がりに増えることはないだろうと考えている。ただ、公立幼稚園でこの場合にどの程度の減り具合になるのかという検討・検証は必要ではないかと思うが、園児数は増加する傾向にはないだろうと見込んでいる。

(6)「改善策を実施した場合の潜在的需要について、希望調査等も含め、実際の保護者ニーズを把握してから存廃を判断すること」について

先ほど申し上げたこととあわせて、仮に市立幼稚園のニーズが少数であった場合、逆に全部閉園するのもも含めて本来検討が必要なのかどうかという議論になってしま

いかねない気がする。その調査のあり方・把握の仕方については少し慎重に対応していかなければならないと考えている。

(7)「閉園後の受け皿について、受入可能人数だけでなく、支援体制、人員配置、通園、安全、費用等を具体的に検証すること」について

閉園の受け皿については私立幼稚園も含めて検討して、私立幼稚園への人的・物的・金銭的支援についてはしっかりと実現できるように検討を進めていかなければならないと考えている。

(8)「公立幼稚園を選択する家庭の多様な事情を踏まえ、短時間勤務、きょうだい、持病、介護等を含む家庭への影響を検証すること」について

多様な家庭事情については今、市立幼稚園で受入れを行っているところがある。短時間勤務・きょうだい・持病・介護となってくるとなかなか教育分野では対応できないようなところもあるため、今後はそうした部分については市全体として福祉部門とも連携して取組を強化していかなければならないと思う。その対象は公立幼稚園だけではなく、広く私立幼稚園も含めて宝塚市民という視点で対応が必要ではないかと思う。

(9)「私立幼稚園を受け皿とする場合、特別支援の受入れ状況、加配、人材確保、保護者の理解、財政支援の持続可能性等を具体的に検証すること」について

まずはこれまで以上に私立幼稚園との強固な連携体制が必要となると考えている。その上で私立幼稚園の実態を把握するとともに地域の実情も可能な限り把握した上で、持続可能な受入れ体制を私立幼稚園に支援するという形で構築していかなければ、市全体の子どもたちの受入れは不可能であると思うので、しっかり検討する必要があるかと思う。

(10)「各園の存廃を判断する際には、園児数や地理的条件だけを基準とせず、保護者や現場の声、教育環境、地域とのつながり、保護者ニーズ等も含め、多面的かつ同一の観点から各園を比較・検証すること」について

しっかりと各園の事情を把握する必要があると思うので、本日の意見陳述の機会も含めて十分に意見を吸い上げていく必要があると思う。一方で、受益者としての保護者の声だけではなく、私立幼稚園の保護者にも意見を聞く機会を今後設けていかなければならないところもあろうかと思う。また全体の納税者という視点でのこの対応についても、しっかりと市でも検討しなればならないと考えている。

(11)「これまで提出された意見・要望について、審議における取扱いと反映状況を明確にすること」について

審議会の中で議論されるべきことだが、反映されるかどうかは審議の結果によるかと考えている。

	(12)「今後の募集・閉園時期について保護者の進路選択に十分配慮し、拙速に決定にしないこと」について できる限り影響が出ないような対応が必要ではないかと考えている。十分なお答えができていないかもしれないが、教育委員会としての考え方は以上である。
会長	ありがとうございました。残り時間が限られているが、今の市教委の回答に関して特にご質問があればお願いします。
委員	質問と言われたが、今の流れの中で疑問に思うことを申し上げたい。この審議会は原則公開となっている。冒頭でご意見の方は書面やメールでということだったが、その内容に関しても、誰がどういったものを書面やメールで発信したかということも議事録できちんと公開するということを教育委員会からもご回答いただいている。その上で、これだけの立場の方や専門的知識を持っている方がこの場に集まっているのであれば、きちんとこの場で意見を言うことも大切ではないかと思う。今回教育委員会からの見解が示されたが、そのことに関してもご意見をこの場で発言してもいいのではないかとと思うが、どうか。
会長	会長としてお答えするが、否定的な意見というのはやはり言いづらい方もおられると思う。そういう意見と公正にバランスよくとりたいと思うので、メールによる意見発信ということで、この後、学識経験者によるワーキンググループが開催されるので、こちらに信頼してお任せいただきたいと思う。出された一般意見はすべて公開する。
委員	否定的でない意見も当然あると思うが、それに関してもか。
会長	そうである。ここでそれが出てくると引っ張られる可能性があるため、バランスよく両方の意見を拾いたいと思うのでメールによる意見陳述をお願いしたい。
委員	ここで議論することを否定しているのか。
会長	保護者の方もおられる中なので、否定的な意見に対してバイアスがかかる可能性があるため、メールによる意見陳述をお願いしたいと申し上げている。
委員	審議会の委員である以上、ご自身の名前で意見を申し上げるのが基本的な職務としてあると思う。それを否定するような進め方が審議会のあり方として正しいのか。
会長	これまで様々な審議会を経験してきたが、そういうスタンスで臨んできた。
委員	そのあり方がおかしいのではないかと申し上げている。

会長	おかしいとは思わない。
委員	委員の皆さん、皆さんがこの場で意見を述べないという審議会のあり方が正しいというご意見か。
会長	それともう一つ、時間的な制約もあるので、残された時間をご配慮いただきたいと思う。
委員	今日すべての審議を行わせるということではなく、議論すべきことがあれば回数を増やせばいいということではないか。
会長	第14回の審議会のときに意見を出していただく。取りまとめはワーキンググループの方で学識経験者を中心に行っていただくので、第14回の審議会のときに意見をいただき、修正があればもちろん修正する。
委員	取りまとめるにあたって、この場で申し上げたいことがある委員の方の希望があれば、なぜそれを否定するのか理解ができない。皆さんのご意見を伺った方がいいと思うが。
会長	時間的な制約もあり、もう1件お諮りしたいことがあったので、その時間も考慮している。
委員	では、先ほどの教育委員会の見解の中で指摘したいことがあるので申し上げる。まず、自動車通園に関してだが、私は現在仁川幼稚園に所属している。仁川幼稚園と長尾幼稚園はすでに車通園を一部許可していただいているが、長尾幼稚園に関しては閉園や統合に際して、一定期間駐車場を確保するということが条件として飲んでいただいて駐車場スペースを確保していただいているが、こちらが5年の契約となっている。ただそれがすでに過ぎており、過ぎた後に教育委員会から「それ以降の契約については幼稚園の方で契約し直してください」と言われて今毎年契約をし直しているという状況を聞いている。毎年の随時更新なので、園児募集のときに来年断られるかもしれないということがあるため、駐車場があるということを具体的に言えないということを困りごととして聞いている。 仁川幼稚園については、一部自動車通園をしているが、とてもではないがドライブスルーができるような状況ではない。前の道路がとても狭いということもあるし、そもそも徒歩と自転車通園の方がおられるため、同じ時間帯に車を停められない。教職員の方が時間をずらして対応していただいている。朝の時間帯ということもあるので、特に雨の日は校区外から自転車でこられる方も自動車で来られることもある。近隣のクレームなども出ている。そうした状況もあって、ドライブスルーが可能かという点と厳しいものがあるし、そもそも3歳児の乗り降りというものそんなにスムーズにいくものではないし、車が並べるようなスペースもないので厳しいと思っている。

事務局	また、私立幼稚園の支援が必要な子どもの受入れに関して、公立幼稚園が173人のうちの30数名を受け入れているのに対して、私立幼稚園は1,600人超の中で20数名の受入れというのは、母数が異なるため積極的に受け入れているとはとても言いがたい状況かと思っている。 私は仁川幼稚園の会長をしているが、同時に小学校のPTA顧問もさせていただいている。この問題について話したときに、特別支援を必要とする児童の受入れについて1年生・2年生のお母さん方も「友達で断られている子がいたが、どうするのか」という声はやはり多数聞いた。未就園児の開放日に来ている時点で断られるところがあるという話も聞いている。前向きに希望を持って受入れ体制が今整っているとは思えない。 通園手段は検討するということで、例としてドライブスルーという取組をかつてしていたところである。課題は十分に意識した上で、不可能というところから議論が入るのではなく、どんな可能性があるかという点をやはり検討していかなければならないと考えている。これは今後検討が必要だという方向性である。 特別支援の受入れについては、これまで通り公立幼稚園だけで費用を使ってわずかなところで受入れをしていくという方向性であれば、そういう答申をいただくことになろうかと思うが、先ほどから言っているのは、公立幼稚園が今ある地域にとっては有益なことかもしれないが、小学校23校ある中で公立幼稚園のない小学校区の方が断然多い中で、その地域の幼稚園の受入れは私立幼稚園が担ってくれている。人口比というお話があったが、公立幼稚園は17人の加配教員・介助員を配置して、専任の園長や副園長を配置する中で対応している。そうした背景で対応できている状況と、財政的な支援が十分ではない中で受け入れている私立幼稚園とを比較するのであれば、条件を一緒にしていかなければならないかと思う。 その上で、宝塚市としては公立幼稚園だけではなく私立幼稚園に就園する配慮が必要な子が伸び伸びと幼児教育を受けられる環境を、これをきっかけに作っていければという趣旨はご理解いただければと思う。その上で皆さんがどういう方向を選択されるのかについては、市としてはご判断にゆだねているところである。以上である。
会長	ありがとうございました。委員、お願いする。
委員	私立幼稚園の特別支援も含めてインクルージョンの取組について公立との比較というお話があったが、現時点で私立幼稚園の中でそういった数字をまとめているわけではない。各園での取組ということで様々なケースがあるというお話をさせていただいたが、例えば障害がある、支援・配慮が必要、あるいは文化的な背景が異なるお子さんを受け入れている園はある。私立幼稚園の中で基本的にお断りをしないという園もある。そういったことを、もし必要であれば私立幼稚園の取組ということも連合会の方でまとめさせていただいて、次回の審議会でお示しできるような形で何らかのものをまとめたと思っている。
会長	

誠に申し訳ないが、進行役の不手際で時間が来た。1点だけ急遽ご確認いただきたいことがある。お手元の資料のホッチキス留めの次第の部分と資料4-1以下のものだが、この全体の審議会の流れを受けて、最終的に会長として取りまとめたものを作らなければならないので、こういう方向で考えているがいかがかということである。

まず諮問事項2「市立幼稚園の教育・保育の在り方について」については、基本的な考え方として、①市立幼稚園の教育の質のさらなる向上、②私立幼稚園に通う園児との公平・均等の確保（私立幼稚園の園児が受けられている教育サービスを市立幼稚園の園児にも公平に受けていただくべきだという考え方）、③保護者ニーズへの対応、という3つの基本的な視点から、具体的には3年保育の拡充・保育時間の延長・給食の提供・登園方法の緩和、それ以外にもあるかもしれないが、前回の審議会ではこの4つの項目を先に出したところ、その前に基本的な考え方を示すべきではないかというご意見があったので、それに対応してこういう方向で考えているがいかがかということである。

諮問事項3「教育委員会及び市立幼稚園の公教育としての役割について」については、①宝塚市就学前教育ビジョンに基づく教育の充実を着実にやっていくこと、②就学前教育・保育の拠点としての市立幼稚園の意義を再評価し拡充すること、③特別支援教育の充実、④小学校との連携ということで、これは教育委員会と市立幼稚園の役割について聞かれているので、こういう方向で考えられるのではないかという基本的な考え方である。

最後のページについては、それを実現する上で、現在市立幼稚園と私立幼稚園があり（もちろん「公教育」というものは私立幼稚園も担っている）、市教委の下に幼児教育センターがあって現在この幼児教育センターが市立幼稚園に対して支援を行っている。市立幼稚園からは教育現場からの情報提供がなされており、この関係を通じて市立幼稚園における教育の拡充に取り組まれてきたと思う。

教育委員会との話の中で出てきているのは、市立幼稚園に幼児教育センター分室を設けて、教育現場からの情報提供を幼児教育センターにより多く確実にやっていくということを考えているということ、もう一つは私立幼稚園との教育情報の相互提供ということで、今日3つの園の保護者の方からそれぞれの幼稚園で行っている非常にすばらしい取組があったと思うが、そういう教育情報を私立幼稚園とも共有・相互提供ということ、そして私立幼稚園との連携を深めるということである。

これまで基本的に公立は公立・私立は私立というふうに分けて考えてきたが、それを取り払って幼稚園が公立であっても私立であっても、さらには認定こども園であっても、また公立保育所、私立保育園も含めて、施設の種別を超えてすべての就学前の子どもが等しく質の高い教育を受けられるようにという基本的な考え方のもとで私立幼稚園との連携を深めていく、そのための条件整備・環境整備として教育委員会から私立幼稚園に対して教育資源の配分、人的・物的・金銭的支援をするということをお約束いただきたい、これが前提条件になるのではないかということを考えている。

これに関してご意見があればメールでお寄せいただければと思う。いただいたご意見を学識経験者4名で取りまとめさせていただき、どういう意見が出てきたかはきちんと公開する。次回が最後の審議会となるので、それまでに答申案の取りまとめを図り、

	それを議題として次回の審議会でご議論をいただきたいと考えている。そのような進め方をさせていただきたいのでよろしくお願いします。 ご意見を賜る期間について、時間的な配慮もお願いしたいので、1週間程度、来週の金曜日ぐらいで日程を調整していただき、回答フォームを委員の方に電子メールで送っていただき、市役所の執務時間もあることから、そこに提出期限を日付だけでなく時間まで記載していただきたい。
事務局	承知しました。
会長	【4 その他】 他に報告事項はあるか。
委員	事務局の話が非常に長く、委員が意見を述べる時間が非常に少ない。 まずこの諮問事項に対する答申案の基本的な枠組みについてだが、今日の話でも対象となっている3園を閉園にすべきか否かということが、諮問されているかのように議論が進んでいるように思う。もともと諮問事項は「市立幼稚園の適正規模及び適正配置について」であり、この部分で3園の閉園が取りざたされているということである。今日申し上げたいのは、この答申案として3園を閉鎖するかどうかを考えるのではなく、どういう枠組みで適正規模・適正配置についてどういう考え方をすべきなのかということをお返すということである。
会長	その通りである。前回の平成26年の幼稚園教育審議会の答申も適正規模・適正配置について答申しているが、どこの園ということは言っていない。今回の答申でも、諮問されているのは適正規模・適正配置であるから、あくまでもその範囲での答申となる。その先のことについては市教委がご判断するということになる。 よろしいか。 長時間にわたりありがとうございました。進行役の不幸で時間を大幅に超過したことをお詫び申し上げます。事務局にお返す。
事務局	【5 閉会】 会長、委員の皆様、ありがとうございました。 次回の宝塚市教育環境審議会の日程について、9月10日（木）、本日より第2庁舎1階会議室 A・B で、時間は午前10時から12時までの2時間で行うので、お集まりいただくようお願いします。 本日は大変お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございました。どうぞお気をつけてお帰りください。

第13回 宝塚市教育環境審議会

日時:令和8年(2026年)8月19日(水)13時30分から

場所:宝塚市役所 第二庁舎1階 会議室 A,B

1 開会

2 会議の成立及び公開について

3 議題

- (1) 諮問事項1:市立幼稚園の適正規模及び適正配置について
- (2) 諮問事項2:市立幼稚園の教育・保育の在り方について(機能充実)
- (3) 諮問事項3:教育委員会及び市立幼稚園の公教育としての役割について

4 その他

5 閉会

【配布資料】

- 資料1 令和8年度宝塚市教育環境審議会委員名簿(改)
- 資料2 教育環境審議会 提出資料
- 資料3 3園からの要望書(丸橋幼稚園・末成幼稚園・宝塚幼稚園)
- 資料4 諮問事項2,3について

令和8年度 宝塚市教育環境審議会 3期-2 委員名簿

	区分	氏名	ふりがな	所属等
1	知識経験者	前田 高志	まえだ たかし	大阪学院大学 経済学部 教授 関西学院大学 名誉教授
2		當山 清実	とうやま きよさね	兵庫教育大学 教職大学院 学校経営コース 教授
3		辻 竜平	つじ りゅうへい	近畿大学 総合社会学部教授
4	知識経験者 (幼児教育)	石野 秀明	いしの ひであき	兵庫教育大学大学院 幼年教育・発達支援コース 教授
5	児童又は生徒の 保護者の代表者	小島 豊一郎	こじま とよいちろう	宝塚市PTA協議会
6		河野 文子	かわの ふみこ	宝塚市PTA協議会
7	【臨】園児の 保護者の代表者	平松 友紀	ひらまつ ゆき	宝塚市PTA協議会
8	学校長	迫 あかね	さこ あかね	R8年度 小学校校長会長 学校長(高司小学校)
9		柳田 覚	やなぎた さとる	R8年度 中学校校長会長 学校長(宝塚第一中学校)
10	幼稚園長 (公立)	佐藤 奈美	さとう なみ	令和8年度 市立幼稚園長会長 園長(丸橋幼稚園)
11	保育所長 (公立)	西畑 智佳	にしはた ちか	令和8年度 市立保育所長会代表 所長(めふ保育所)
12	【臨】幼稚園長 (公立)	橘 俊一	たちばな しゅんいち	宝塚市立末成幼稚園長
13	【臨】幼稚園長 (私立)	岡野 泰和	おかの やすかず	宝塚厚生幼稚園長
14	【臨】幼稚園長 (私立)	小和田 勉	こわだ つとむ	花屋敷幼稚園長
15	【臨】保育所長 (私立)	高橋 薫	たかはし かおる	仁川ウエル保育園長
16	市内の公共的団体の 代表者	高井 美智子	たかい みちこ	宝塚市青少年補導委員連絡協議会
17		西林 陽子	にしばやし ようこ	宝塚市民生委員・児童委員連合会
18	公募による市民	田井 眞一	たい しんいち	市民公募委員
19		田村 典子	たむら のりこ	市民公募委員

教育環境審議会 提出資料

これまでに寄せられた保護者・PTA会長会等の意見・要望の整理

宝塚市の公立幼稚園再編に関する審議にあたり、これまで保護者、PTA会長会、保護者説明会、各園から提出された意見陳述書等で示されてきた意見・質問・要望を、審議の参考資料として整理したものです。

本資料では、3園に共通する意見・要望と、末成幼稚園・丸橋幼稚園・宝塚幼稚園それぞれに固有の事情や意見を分けて整理しています。

本資料は保護者全体の意見が一つに一致していることを示すものではありません。実際に提出・表明された要望書、意見書、嘆願書、申入書、署名、説明会、各園の意見等をもとに主な論点を整理したものです。個別の体験・認識については、事実確認が必要な事項を断定せず、示された意見として整理しています。

1. 3園に共通して示されてきた主な意見・要望

(1) 公立幼児教育の今後のあり方を先に議論してほしい

真っ先に公立幼稚園の廃園を議論するのではなく、これからの宝塚市の幼児教育、公立幼稚園が担うべき役割、公立幼稚園を今後も選ばれるものにするにはどうすればよいのかを検討した上で、再編の必要性や各園の存廃を議論してほしい。少子化や園児数の減少、行政資源の制約は理解しているが、なぜ園児数が減少しているのか、その背景や制度・保育内容・募集方法等も含めて検証する必要がある。

(2) 園児数や「15人」という基準だけで存廃を判断しないでほしい

「15人」という基準が子どもにとって本当に適切な教育環境を判断する基準なのかを検証してほしい。少人数には、一人ひとりを丁寧に見られる、子どもの発言や気づきを拾いやすい、教師と子どもの関わりが深くなる、異年齢の関わりを生かせる等の教育的側面がある。一方で一定規模の集団が重要との考えも理解しているため、小集団教育の利点・不利益を専門的知見も踏まえて検討してほしい。

(3) 園児数を判断材料とするのであれば、まず保護者ニーズを検証してほしい

現在の公立幼稚園は、保育内容や保育時間、3年保育等で私立と条件が異なる。現在の園児数だけを「公立幼稚園への需要」と判断することには慎重であるべき。3年保育、午後保育、保育時間の延長、給食等を整えた場合の需要を調査し、実際の保護者ニーズを検証してから存廃を判断する方法も検討してほしい。家庭のニーズは一律ではなく、短時間勤務と家族との時間を両立したい家庭や、子どもと過ごす時間を大切にしたい家庭もある。

(4) 「残る園の拡充」が本当に公立幼稚園の充実につながるのか検証してほしい

再編後の3年保育、午後保育、給食等について、それが単に園児数を確保するための施策なのか、公立幼稚園を選びたい家庭を増やすための施策なのかを明確にしてほしい。公立を残すのであれば、園児を減らさないためだけでなく、公立幼稚園をどのような教育・保育の場として充実させるのかを同時に検討する必要がある。

(5) 公立幼稚園が担う教育的・地域的役割を評価してほしい

少人数教育、多様な子どもの受け入れ、特別支援、幼小連携、地域とのつながり、家庭と園が子どもの育ちを共有する役割、私立とは異なる教育の選択肢等を評価してほしい。信頼できる教職員が子どもを育てるだけでなく、培ってきた経験や教育を次世代の教員につなぐ役割もあるのではないかな。

(6) 特別支援の受け皿について、閉園より先に具体的な体制を示してほしい

私立園の受け入れ体制、加配人員、市の研修・連携、重い支援が必要な子どもや医療的ケア児への対応、支援の継続性、財政支援の持続可能性等を具体的に示してほしい。「支援する」という制度説明だけでなく、子どもと保護者が安心して卒園まで過ごせる環境が確保されるのかを閉園判断より先に検証してほしい。

(7) 閉園後の「受け皿」が、本当に機能するのか検証してほしい

定員だけでなく、支援体制、通園距離、交通手段、安全、駐車・駐輪、制服・用品等の費用、きょうだい・持病・介護・ワンオペ等の家庭事情まで検証してほしい。公立から別の公立へ移る場合と、私立を受け皿とする場合では、通園環境、費用、教育内容、支援体制等が異なることも考慮してほしい。

(8) 保護者・地域の声を「反対意見」で終わらせず、審議に反映してほしい

要望書、意見書、嘆願書、申入書、署名等を単に「閉園反対」として処理せず、なぜ存続を求めるのか、何を必要としているのか、どのような教育的・地域的価値があるのかまで読み取ってほしい。提出された意見がどのように整理・検討され、答申案にどう反映されたのかも示してほしい。

2. 末成幼稚園について特に示されてきた意見・要望

(1) 園児数だけでは評価できない末成幼稚園の位置づけ

末成幼稚園は現在、宝塚市の公立幼稚園の中で園児数が3番目に多い。少子化の中でも一定の園児が集まっていることから、なぜ現在も選ばれているのかを検証してほしい。子どもの興味や小さな気づきを大切に、遊びを通して考える力、探究心、コミュニケーション力、他者と関わる力、自己肯定感等を丁寧に育てていると感じる保護者の声がある。

(2) 幼小連携・地域とのつながり

実際に通う小学校との交流があり、新しい環境に慣れるまで時間がかかる子どもの安心につながっている。徒歩や自転車で通えることで、降園後の公園遊びや保護者同士の交流も生まれている。地域で子育て家庭を支えるつながりとして評価してほしい。また、教育や先生方、園の環境に魅力を感じ、通園を希望して校区への転居を選んだ家庭もあるという声がある。

(3) 3年保育について、これまでの経緯と潜在的需要を検証してほしい

約5年前、末成幼稚園で3年保育を求める保護者から署名が提出されたが、実現には至っていない。当時の説明については現在も事実確認が必要な事項として扱う。過去に求めた選択肢が十分に実現されなかった経緯も含め、現在の園児数だけを需要の結果とせず、潜在的需要を調査・検証してほしい。

(4) これまでの保護者・地域の声を判断材料として扱ってほしい

末成幼稚園について要望書、意見書、嘆願書、申入書、署名等を通じて継続的に意見が提出されている。令和8年7月8日には存続を求める1,359筆の署名が提出された。署名数を他園と比較するのではなく、末成についてこれだけの声が寄せられている事実として判断材料にしてほしい。

3. 丸橋幼稚園について特に示されてきた意見・要望

(1) 少人数・異年齢教育の価値を評価してほしい

少人数を生かし、一人ひとりに目が行き届いた教育が行われている。子ども自身が考え、意見を持ち、発言する機会があり、年長児と年中児が互いに意見を出し合い役割を考える活動等がある。異年齢での関わりによる育ちがあるという意見がある。

(2) 特別な支援を必要とする子どもを受け入れてきた実績を評価してほしい

特性のある子どもが在籍し、加配対応を行ってきた実績がある。私立幼稚園への入園を断られた、定員超過等で私立を選ばなかった、経済的負担や加配対応の実績を理由に公立を希望する等、公立幼稚園を必要とする家庭が存在するという意見がある。

(3) 通園環境と地域的役割を検証してほしい

閉園した場合、最寄りの公立幼稚園までの距離だけでなく、坂道や交通環境、駐車環境、各家庭の車の保有・利用状況、園バスの計画等を含め、実際の通園手段が確保されるのかを検証してほしい。また、保育園・小学校・中学校との連携等、地域の教育拠点としての役割も評価してほしい。

4. 宝塚幼稚園について特に示されてきた意見・要望

(1) 教育・福祉の両面を担う地域の子育て拠点として評価してほしい

子ども家庭支援センターが管轄する育児サークル「いちごみるく」の活動場所としても利用され、幼小連携に加えて乳幼児とのつながりも生まれる環境がある。地域の子育て・教育・福祉を支える拠点としての役割を評価してほしい。

(2) 私立幼稚園が受け皿となる場合の費用負担を検証してほしい

閉園後に周辺の私立幼稚園が受け皿となる場合、保育料が無償化されていても、入学金や制服代等の実費に差額が生じるとの意見がある。入園時・在園中を含む実際の家庭負担を比較し、閉園によって生じる経済的負担を検証してほしい。

(3) 特別支援の受け入れ体制を、閉園より先に具体的に示してほしい

周辺の私立幼稚園のうち支援を必要とする子どもを受け入れている園は限定的との意見がある。今年度にも私立入園を断念して宝塚幼稚園に入園した園児が複数いるとの声がある。私立園の受け入れ状況、研修・連携体制、加配人員、継続的な支援体制等を具体的に示し、十分な受け入れ先を確保してから閉園を判断してほしい。

(4) 公立幼稚園だからこそ受け入れられる多様な子どもたちの環境を評価してほしい

周辺には児童養護施設もあり、特別支援だけでなく、さまざまな家庭環境や特性を持つ子どもにとって公立幼稚園が必要となる場合がある。多様な子どもたちが同じ場で学び、保護者同士も理解を深めながら過ごせる環境としての役割を評価してほしい。

(5) 将来の公立幼稚園の配置を考える上で、通いやすさを評価してほしい

阪急清荒神駅、宝塚駅、JR宝塚駅、路線バス等からの交通利便性があり、駅からの道も比較的平坦で、図書館等の公共施設も近い。将来、公立幼稚園の数が少なくなった場合、市内から通いやすい場所に公立幼稚園を残すことも重要ではないか。

5. 審議にあたり、特に検討していただきたい事項

- ・閉園を前提とせず、存続・改善を含む複数の選択肢を比較検討すること。
- ・園児数だけでなく、地域性、教育的役割、特別支援、幼小連携、家庭・地域を支える機能等を評価項目に含めること。
- ・「15人」という適正規模基準について、その根拠と妥当性を改めて検証すること。
- ・小集団による教育が子どもの育ちに与える影響について、専門的な知見も踏まえて検証すること。
- ・3年保育、午後保育、保育時間の延長、給食等を実施した場合の園児数・保護者ニーズへの影響を検証すること。
- ・改善策を実施した場合の潜在的需要について、希望調査等も含め、実際の保護者ニーズを把握してから存廃を判断すること。
- ・閉園後の受け皿について、受入可能人数だけでなく、支援体制、人員配置、通園、安全、費用等を具体的に検証すること。
- ・公立幼稚園を選択する家庭の多様な事情を踏まえ、短時間勤務、きょうだい、持病、介護等を含む家庭への影響を検証すること。
- ・私立幼稚園を受け皿とする場合、特別支援の受け入れ状況、加配、人材確保、保護者の理解、財政支援の持続可能性等を具体的に検証すること。
- ・各園の存廃を判断する際には、園児数や地理的条件だけを基準とせず、保護者や現場の声、教育環境、地域とのつながり、保護者ニーズ等も含め、多面的かつ同一の観点から各園を比較・検証すること。
- ・これまで提出された意見・要望について、審議における取扱いと反映状況を明確にすること。
- ・今後の募集・閉園時期について、保護者の進路選択に十分配慮し、拙速に決定しないこと。

6. おわりに

私たちは、私立幼稚園を否定するものではありません。また、少子化や行政資源の制約があることも理解しています。

その上で、今回の再編については、「園児数が減少しているから閉園する」という結果だけではなく、なぜ園児数が減少しているのか、どのような改善策が可能なのか、公立幼稚園が果たしている役割をどう評価するのか、閉園後に本当に同等以上の教育・支援環境を確保できるのかまで含めて検討する必要があると考えます。

3園には、それぞれ異なる地域性や教育的特徴があります。末成幼稚園には地域とのつながり、幼小連携、現在も一定数の園児が通う実績、1,359筆の署名に示された保護者・地域の声があります。丸橋幼稚園には少人数・異年齢教育の良さ、特別な支援を必要とする子どもを受け入れてきた実績、保幼小中の連携があります。宝塚幼稚園には、子ども家庭支援センターの育児サークル等ともつながる地域の子育て拠点としての役割、特別支援を必要とする子どもを受け入れてきた実績、交通利便性や公共施設との近接性があります。

だからこそ、3園を単純に園児数や一つの基準だけで比較するのではなく、それぞれの園が現在どのような役割を果たし、どのような家庭に必要とされているのかを同じ観点から丁寧に検証していただきたいと思います。

保護者が求めているのは、単に結論を変えてほしいということだけではありません。子どもたちにとって何がより良いのかを、必要な情報を共有しながら十分な時間をかけて検討し、その過程と判断の根拠を示していただくことです。

そして、公立幼稚園に課題があるのであれば、まず改善する。改善した上で、実際の保護者ニーズや利用状況を検証する。その結果を踏まえて、初めて存廃を判断する。そのような順序で、今回の再編を考えていただきたいです。

どうか、閉園という結論を急がず、存続・改善という可能性も含めて、3園それぞれの教育的価値と地域の実情を踏まえ、最後まで慎重に検討してください。

子どもたちにとって本当に良い公立幼児教育とは何なのか。そのことを起点に、宝塚市のこれからの幼児教育のあり方を考えていただくことを、心からお願いします。

【整理の対象】

- ・PTA会長会として提出した申入れ等
- ・各園保護者から提出された要望書・意見書・嘆願書等
- ・各園に関する署名活動
- ・保護者説明会で出された質問・意見
- ・教育環境審議会に関する整理資料
- ・各園から示された意見陳述書等

※本資料は上記資料・発言および今回寄せられた個別の保護者意見を整理したものであり、すべての保護者が全項目について同一の意見であることを示すものではありません。個別の体験や認識については、事実確認が必要な事項を断定せず、保護者等から示された意見として整理しています。

丸橋幼稚園の存続および公立教育環境の維持に関する要望書

令和8年7月22日
宝塚市長 宛

要望趣旨

私どもは、丸橋幼稚園に子どもを通わせていた保護者および地域住民です。

宝塚市において検討・進められている丸橋幼稚園の閉園・統合方針に対し、深い懸念と存続を求める切実な願いを抱いております。

この度、当園に深く関わってきた保護者・地域住民19名より、丸橋幼稚園の存続や公立幼稚園のあり方に関する生の声（体験談・意見）が集まりました（詳細は添付の「別紙意見書」を参照）。

集まったお声からは、単に「家から近い」という利便性にとどまらず、「私立園等で受け入れが難しい発達特性のある子への全手厚い見守り」「少人数・異年齢保育だからこそ育つ自己肯定感や思いやりの心」「隣接する丸橋小学校との連携による『1年生の壁』の解消」「地域コミュニティの拠点・安らぎとしての価値」など、園児数という「数字」だけでは到底測ることができない、公立幼稚園ならではの重要かつ代替困難な役割が明確になりました。

つきましては、園児数のみを根拠とした安易な閉園判断を一度立ち止め、地域の子育て環境・発達支援のセーフティネットを守るため、下記のとおり要望いたします。

1. 園児数（数字）のみを判断基準とした安易な閉園計画の見直し

単に「園児数が少人数だから保育が成り立たない」と断定するのではなく、少人数・公立だからこそ実現できている「きめ細やかな個別支援」「自然体験教育」「異年齢での成長促進」といった本質的な教育的価値を正當に評価し、存続の道を再検討してください。

2. 発達支援（インクルーシブ教育）および公立ならではのセーフティネット機能の維持

私立園や保育園で受け入れが難しかった子どもや、発達に特性のある子どもを温かく受け入れ、劇的な成長を引き出してきた実績があります。配慮が必要な子どもや、子育てに悩む保護者の心に寄り添う公立幼稚園ならではのセーフティネット機能を守ってください。

3. 「3歳児保育（3年保育）」および「給食」の導入による「公立こども園」への再編・アップデート

現在の「2年保育・給食なし」という条件が、入園を検討するご家庭の大きなハードルとなっています。ニーズに合わせた3年保育や給食の導入（公立こども園化など）を行えば利用希望者は確実に増加します。安易な削減・閉園ではなく、時代に即した環境整備を行ってください。

4. 隣接する丸橋小学校との「幼小連携」および「地域コミュニティ機能」の継続

小学校に隣接し日常的に交流できる環境は、子どもたちの就学不安を解消し、スムーズな進学を支えています。また、園児たちの笑い声や地域の行事を通じた繋がりや地域全体の活気と安心感を生み出し、この貴重な教育・地域基盤を失わせないでください。

5. 中途入園・転入児・私立不合格児の「受け皿機能」の維持

近隣の新築住宅増加や自衛隊等の転勤族のご家庭、他園の環境に馴染めなかった子どもの受け皿として、年間を通じて柔軟に対応できる公立幼稚園の存在は地域にとって不可欠です。

19名のお声から見た丸橋幼稚園の5つの核心的価値

1. 手厚い発達支援と親への心理的ケア（セーフティネット）

発達障害や特性のある子が全教職員に見守られ、劇的な言葉の発達や人間的成長を遂げています。また、孤立しがちな保護者の心に寄り添う「親育ての場」としても機能しています。

2. 広々とした環境でののびのびとした体験型教育

園庭での遊びや、畑・生き物のお世話を通じ、子どものペースに合わせた豊かな感性、自主性、協調性を育んでいます。

3. 隣接小学校とのスムーズな接続と安心感

共通の通学路での登園や日常的な小園交流を通じ、就学への不安が解消され、同じ友達と安心して小学校へ進学できています。

4. 少人数・異年齢保育が育む「思いやりと自己肯定感」

年長児が年下の子を自然にお世話する経験を通じ、責任感と思いやりが育ち、小学校進学後も高く評価される人間性の土台が形成されています。

5. 地域を明るく包む子どもたちの歓声と温かいコミュニティ

園から聞こえる子どもたちの笑顔や笑い声は近隣住民の癒やしとなっており、保護者同士の強い信頼関係を含め、地域コミュニティの核となっています。

『丸橋幼稚園の存続を求める保護者・地域住民の意見書』 (全19名分の提出者一覧、要約、および個別の生の声全文)

丸橋幼稚園には家から近いので通わせてもらってました。いつの間にか友達もたくさんでき、毎日元気に登園してました。たまに近くを通ると子供たちの元気な笑い声が聞こえてきます その声を聞くとなぜか微笑んでしまいます。園児たちの声をなくさない為にも丸橋幼稚園の存続を願います

・丸橋幼稚園を選んだ理由

広々とした園庭や、畑や生き物のお世話もでき、遊びを中心とした体験を通して、豊かな感性や協調性を育むことができる、子どものペースに合わせたのびのびとした環境を大切にしているところが園を選んだ理由です。

・通わせて良かったと思う事

通う小学校がすぐ横にあるので、通学路など幼稚園のうちに慣らすことができ小学校との交流もあるので幼稚園のうちに小学校への子どもの心構えができ安心できます。

丸橋幼稚園と丸橋小学校の子ども達が交流することは地域のコミュニケーションに必要だと考えます。

選んだ理由：校区内の公立だったから。

良かった事：長女の登園拒否の際も細やかに配慮してくれた。みんな良い先生でした。

要望：卒園した幼稚園が無くなるのは寂しいので残して欲しい

〇丸橋幼稚園を選んだ理由

長尾と丸橋の交流に参加して、長尾では萎縮していたのですが、丸橋では自分らしく伸びのびと笑顔でとても楽しんでいたことが決め手でした。

丸橋幼稚園だからこそその雰囲気、空気感がありこちらに通えて本当によかったと思っています。

〇通わせてよかったこと

異年齢保育で年長さんが年少さんのことを気にかけてお手伝いしていたり、思いやりの心や責任感などお互いの姿を見て共に成長していると感じました。息子は障害があるのでたくさん助けてもらってみんなを頼りにしていましたが、同年齢のお友達のマネをしたり年少さんががんばっている姿を見て自分でやってみようと思うこともすごく増えて年長の1年だけでしたが想像を遥かに超えて成長しました。

先生方が子供たち一人一人を良く見てくださっていて、障害があっても運動会や音楽会などみんなと同じように参加でき小学校でもこの経験が大きな自信に繋がっています。伸びのびと自分らしく、また色々なことに挑戦できたことも本当に嬉しく思っています。先生方の支え、お友達の優しさ、保護者の方や地域の方の見守りのおかげです。この地域の方々はみなさん優しくこの地域だからこんなに良い雰囲気なのだろうなとも思います。隣に小学校と保育園があるので、交流の場も多く色々な経験をさせていただき、どれもとても楽しく参加してお話もしてくれるようになりました。保護者同士もみんな仲良く、保護者参加のイベントも親も楽しめて良い思い出になっています。

○要望

丸橋幼稚園は2年保育なので、保育園や3年保育の幼稚園に比べると条件的に入りにくいことがあります。もし3年保育であれば絶対にもっともっと園児が増える園だと思っています。丸橋幼稚園は地域にとって必要不可欠です。

園区の長尾幼稚園の交流も参加しましたが、園の雰囲気は全然違いました。中山台や長尾南が閉園して我が家の地域の公立幼稚園はすでに選べる所が少ないです。これ以上選択肢を減らさないでください。

公立幼稚園に通えたから、私も就学前は働かずにすみ、心に余裕が生まれて子供と向き合うこともできました。

小学校に毎日楽しく通えているのは丸橋幼稚園での経験が息子にとって非常に大きな土台となり自信に繋がったからです。

息子はもし長尾しか選択肢がなければ幼稚園に通うことは諦めていました。

再度になりますが丸橋幼稚園は地域にとって必要不可欠です。丸橋幼稚園の存続を求めます。

家が近いのもありますが娘を通してマイナスイメージが全く無く息子も丸橋幼稚園に通わせたいと思ったからです。

人数が少ないのでしっかり見てもらえている安心感もありますし先生方と話せる機会も他の幼稚園に比べて多いと思うので懇談とかでなくても相談しやすく幼稚園での様子も教えていただけて良かったです。

特性がある子を受け入れている点もそれぞれの成長に良い影響を与えていると感じましたし少人数なりの良さが本当に多い幼稚園ですので閉園するべきでは無いと強く感じています。

丸橋幼稚園を選んだ理由

- ・幼保小のつながりが多く、交流の機会がたくさんあり、小学校への憧れや期待がもてる。

- ・幼稚園から同じ小学校へ進学する友達が多く、つながりがあり、子どもも親も安心できる。

通わせて良かったと思う事

- ・みんなの前で話すことが苦手だったけど、自分の考えや意見を言えるようになった！

- ・異年齢交流が多く、年長としての自覚が芽生えた！

- ・少人数なので、きめ細かく一人ひとりをみてもらえた！

- ・自分たちで考えたことを試したり、工夫したりできる環境が整っていた！

- ・登園降園時に先生や保護者と毎日顔を合わせるので、小さなことでも相談しやすい！

- ・少人数だからこそ発表会とか一人ひとりの活躍の場が多く、自信につながった！

- ・自分の子どもだけでなく、お互いの子どもの成長を一緒に見守るような温かい雰囲気が良かった！

丸橋幼稚園を選んだ理由

私立幼稚園 1園に入園希望していたが、園の方針に合わず入園不可能となった為

通わせて良かったと思う事

自宅から徒歩で通える範囲の園という事

また、少人数の幼稚園であるが幼稚園生活、療育、習い事の経験を経て就学に向けた準備が出来た事

要望

療育を受けながら通っている園児とその保護者にとって丸橋幼稚園は必要である

私立幼稚園の抽選に落選し、入園不可能となった子の受け皿ともなるので丸橋幼稚園は必要である

よって丸橋幼稚園の閉園は反対します。

閉園反対です！

私自身も丸橋幼稚園を卒業して人生の本当に楽しい思い出として残っていること、周りの友人や家族が丸橋幼稚園を利用してみんなが丸橋に入れてよかったと聞いていたので子ども2人を通わせました。先生と子どもたちとの距離の近さ、きめこまやかな保育、幼稚園ならではの遊びやコミュニケーションをまなんで心が豊かになること、

小学校に上がるのに周りの環境に自然に慣れること、親も含めて地域の方々と交流をもてること、子どもたちが小学校に上がるにわたって必要最低限に必要なこと先生の話聞く、立ち歩かないなどの能力を自然を身に付けられる。など本当にいいことしかありません。

要望としては小学校の連携をとって給食を学校に週に1回でも食べに行って

給食になれるようにしてもらえとなお嬉しいです。

急な編入などもいつでも受け入れてくれる丸橋幼稚園は本当に必要です！少子化にも繋がると思います。

無くさないでください。

閉園反対です。

私が丸橋幼稚園を選んだ訳は子どもの発達に遅れがあったからです。私立では補助の先生がつかないことがほとんどだと聞き小学校横の公立に決めました。

通わせて良かったのは、そのまま持ち上がりで同じ小学校に通えた事が本当に良かったです。子どもの特性も周りのお友達が理解をしてくれて楽しく小学校にも通える事ができました。

補助の先生もつけてもらい本当に助けられました。

上の子は私立に通わせたましたが、二人目の子が障がいので丸橋幼稚園に通い公立ならではの小学校の繋がり良さに引かれ三人目も丸橋幼稚園に通わせました。

要望としては、子ども園になって3年保育で給食があればよかったと思います。

先生が子供の目線になって沢山遊んでくれたり
集団生活を送るための指導をしてくれたりしてくれるのを「くまさんくらぶ」などで拝見して安心して預けられると思ったから丸橋幼稚園を選ばせてもらいました

小学校へ通う時のお友達とも早くからコミュニケーションも
とれるし先生方が一人一人の性格をきちんと把握してくれて遊び方もその子に合わせてしてくれ子供も喜んで毎日過ごしていました

その子の個性も伸ばせてもらえて良かったです。
体力もすごくいついてすこしのことで疲れず元気一杯で過ごしてくれて丸橋幼稚園に通わせてよかったと思います。
楽しい思い出が沢山で幼稚園からずうと友達とも続いていて仲良しでいてくれています。
なので閉園はしないでこのまま地域の為に存続してほしいとおもいます。

歩いて親子で登園するので体力もつき、登園時の様子も分かり、隣接する小学校に幼稚園で過ごした友達と一緒にいけるので、開放されている時間が多かったのも、園での子どもの様子が分かり、成長の様子も見れて多くの思い出もできた。

また、トラブルの時は、親の繋がりもあったので早くに自分たちで解決できた。一緒に2年過ごした子ども同士は、今も交流が続いていて丸橋幼稚園に通わせてよかったと改めて思う。

少子化で園に集まる子どもは少ないかもしれないけれど、私立とは違う、公立ならではの教育をぜひ続けて欲しい

■
【選んだ理由】

・進学予定の小学校の隣にある幼稚園だから（入学への不安軽減のため）

・のびのびとした雰囲気よかったから

【良かったこと】

・先生方に丁寧に見てもらえたし、のびのびと過ごせた。

・子どもたちが自ら考えて作り出す行事のあり方がとてもよかった。

・小学校の通学路を歩いて登園し、すぐ横の小学校の様子を普段から見られること、小学校との交流があることから、入学への不安が軽減され、スムーズに進学できた。

・保護者同士や先生方とのつながりが密で、保護者も子どもも安心して過ごせた。

【要望・意見】

ただ園児数が少ないから閉園するという形ではなく、せめて公立のこども園を作るなど、体制を整えるなどしてから閉園を進めるべきではないか。

■
年長の8月に宝塚市に引越して来たので、同じ小学校に通う友達が欲しいと思い選びました。

先生と子どもたちが輪になって話し合う機会が多く、自分だけでなくお友達の意見や気持ちをお互いに大切にすることをしっかりと教えていただきました。

虫取りや折り紙で作った飛行機を飛ばしたり、自主的に遊ぶ事も大切にしてくださり、のびのびと毎日とても楽しそうに通っていました。

行事ごとにもとてもよく取り組んでくださり、子どもたち一人一人がとても輝いていました。

園児の数は少ないですが、丸橋幼稚園は逆にそれが強みだと思えます。一人一人に寄り添い、手厚い保育をしていただきました。

・未就園児親子教室のくまさんクラブもとても楽しかったです。なかなか家ではできない遊びを近所の幼稚園でしてもらえるのがありがたかったです。地域の保護者達の為にもこのまま丸橋幼稚園は存続してほしいと思います。

- ・先生が目が行き届く環境だと思った。
- ・先生方が園児一人一人としっかり向き合ってくれて、内気だった息子が先生の信頼関係を築けて前向きになって良かった。異年齢保育のおかげで、年長だった息子は年下の子に優しく、お手本になる事を意識するようになり自信に繋がって良かった。また年中の息子は、年長さんを近くで見て、何事にも意欲的に行動するようになって良かった。
- ・少人数だけど、少人数だからこそできる保育があり、子供の成長を促してくれる丸橋幼稚園の閉園は反対です。

★丸橋幼稚園を選んだ理由

→小学校と隣接しているので双方の行事等で便利。幼稚園で仲良くなった友達がそのまま小学校も同じになれる

★通わせてよかったと思うこと

→親子共にたくさん知り合いができた

★要望

→週何回かでもいいので給食があればなおよかったかなと思う

歩いて通える距離に幼稚園があるのはとても利用しやすく、台風とか災害時のお迎えも近いのですぐ行けるのがとても助かりました
私立のバス通園もいいけど事故のリスクもある中、手を繋いで一緒に登園できて親子のコミュニケーションもとれとても楽しくお話もできました

だんじりとか、地域の行事とかにも参加させてもらえたり
子ども達の楽しい記憶になっています
これからも存続おねがいします

・兄弟で通っていました。

長男の時は自宅（山本野里）から通える範囲が丸橋幼稚園だったのと何かあればすぐに迎えに行ける、将来通う予定の小学校のすぐ隣なので子供が通いやすいと思ったので選びました。

次男は兄が通っていてよかったのでそのまま通いました。又次男は発達の面でサポートが必要なこと私立幼稚園では対応が難しいかもしれないので公立幼稚園を選ぶことしました。

・長男次男ともにいいお友達に恵まれたことや小学校がすぐ隣なため、登校へ新しい道を覚えなくてもすむこと。

又お互いの交流が多く入学前から小学校の様子をしれて、学校に慣れてから通えるのは良かったと思います。

・丸橋幼稚園が閉園すると自分が住んでいる場所からは長尾幼稚園も近隣私立は遠くなります。車の通園を許可しても車がない方は多いとは思いますが。又我が家の近くには新築予定の住宅が多く建つ予定もあり、自衛隊の方が転勤で引っ越しされた際途中入園出来る幼稚園がないのは困ることになると思いますのでこのまま残して頂くことを希望しています。

又宝塚は公立幼稚園で三年保育をしている園が少ないのも園児の数を減らしていると思います、三年保育や幼保一体にしていだきたいと思います。

選んだ理由：自分の子供が在園してた時は私立無償化前だったので、費用が安くありがたかった事。また、小学校の隣の立地で、あらかじめお友達を作ってスムーズに入学してほしいという思いがありました。

良かった事：同じ幼稚園のお友達とそのまま小学校に上がったため、子供が不安なく小学校生活に馴染めた事。先生方が温かく手厚く見守って下さった事も大きな財産と感じています。保護者同士の繋がりもとても良かったです。

要望：少人数ならではの温かい保育の価値や、子育て世帯の選択肢を守るためにもぜひ存続をお願いしたいです。

丸橋幼稚園を選んだ理由

私の息子は2歳の時に発達障害の診断を受けました。

当時は保育園を希望していましたが、受け入れが難しいと言われる事が多く、どうすればいいのか悩んでいました。

そんな中、発達支援の相談員の方から「丸橋幼稚園は少人数なので加配の先生を配置できない可能性はあるけれど、一人ひとりに目が届きやすく、のびのびと園生活を送れると思います」と勧めていただき入園を決めました。

丸橋幼稚園に通わせてよかったと思うこと入園当初は同学年が6名と少なく、加配の先生も付けられないと聞いていたため、不安な気持ちでいっぱいでした。

しかし、その不安はすぐに安心へと変わりました。

担任の先生だけでなく丸橋幼稚園の先生を全員がそのことを親身になって見守り個性や特性を理解しようと寄り添ってくださいました。

園全体で子どもたちを見守り育ててくださっていたので安心して預けることができました。

入園前は発話もままならない息子が幼稚園生活を送る中で少しずつ言葉が増え、今では「おしゃべりさん」と言われるほど成長しました。

先生方が息子のペースを大切にしながら根気強く関わってくださったおかげだと感じています。

また、少人数だからこそ異年齢との関わりも深く、年長になると自然と年中さんのお世話をする姿が見られるようになりました。思いやりや責任感が育まれ、とても子どもの成長につながったと感じています。

在園中はお友達同士の大きなトラブルもなく、穏やかで、健やかな環境の中で毎日楽しくのびのび過ごすことができました。

その経験は小学校生活にもつながっており、小学校の先生方からは「とても優しく、お友達のことをよく気かけられる子ですね」と言っていていただくことがあります。

丸橋幼稚園で過ごした時間が息子の優しさや、思いやりの土台になっていると感じています。

そして何より、先生方は子どもだけでなく親である私にも寄り添ってくださいました。

発達障害のある子どもを育てる中で不安や悩みを抱えることも多くありました。そのたびに気付いて話を聞いてくださり、一緒に息子の成長を喜び支えてくださいました。

私にとって丸橋幼稚園は子どもだけが成長する場所ではなく親である私自身も支えられ、一緒に育てていただいた場所です。

要望

園児数だけを理由に「保育として成り立たない」と判断するのではなく、少人数だからこそ実現できる教育や保育の価値にも目を向けていただけたらと思います。

少人数だからこそ、発達に特性のある子どもを含め、一人ひとりにしっかりと目が行き届き、それぞれの個性や成長に寄り添った関わりができると思います。

数字だけでは測ることができない価値が丸橋幼稚園にはあり、私たち親子もその環境に支えられ、安心して幼稚園生活を送ることができました。

私たちのように丸橋幼稚園だからこそ安心して子どもを預けることができた家庭があることをぜひ知っていただきたいです。

また、発達に特性のある子ども持つご家庭にもこのような公立幼稚園があることを知る機会を作っていただきたいです。

私たち親子が丸橋幼稚園に救われたように、これから先も必要としている子どもや保護者のためにこの温かい環境を残していただけることを心から願っています。

閉園については慎重にご検討いただきますようお願い申し上げます。

宝塚市の公立幼児教育の在り方に関する要望書

宝塚市長 森 臨太郎 様

平素より、市政運営並びに教育・子育て施策の推進にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。また、市長が掲げておられる「子どもを真ん中に据えたまちづくり」や、誰一人取り残さないインクルーシブ教育、自ら考え学ぶ探究的な教育の推進に、私たちは大きな期待を寄せています。今回の公立幼稚園再編の議論を契機として、公立幼稚園全体の在り方、そして宝塚市の公教育の在り方を改めて見つめ直し、未来の子どもたちのためにより良い教育環境を築いていただきたいとの思いから、本要望書を宝塚幼稚園要望書と併せて提出いたします。現在、公立幼稚園再編の方針が示されたことにより、保護者の間には大きな戸惑いと不安が広がっています。また教育委員会の進め方についても場当たり的で誠実さが感じられません。子どもたちは今後も安心して地域で教育を受けられるのか、公立幼稚園という選択肢は残されるのか、支援を必要とする子どもたちの受け皿は確保されるのか—多くの保護者が将来への不安を抱えています。私たちは、この不安を単なる反対の声としてではなく、宝塚市の未来の教育を共に考える機会として受け止めていただきたいと願っています。

1 公立幼稚園の基本方針を見直してください

今回の公立幼稚園再編は、約10年前に策定された「宝塚市立幼稚園の適正規模及び適正配置に関する基本方針」をもとに進められています。しかし、基本方針の策定以降、宝塚市の就学前教育を取り巻く環境は大きく変化しました。少子化の進行に加え、共働き世帯の増加、保護者の就労形態の多様化、幼児教育・保育の無償化、3年保育を前提とした園選びの一般化など、保護者のニーズは大きく変化しています。さらに、宝塚市が現在推進しているインクルーシブ教育や探究的な学びなど、公教育に期待される役割も、この10年間で大きく広がりました。行政計画は、一度策定したら変えないものではなく、社会情勢や市民ニーズの変化に応じて検証し、必要に応じて見直すことで初めて実効性を維持できるものと考えます。私たちは、10年前に策定された基本方針そのものを否定しているのではありません。しかし、その方針が策定された当時の前提条件が現在も妥当であるかについて十分な検証が行われないまま、一部の基準のみを根拠として公立幼稚園の再編を進めることには、大きな疑問を感じています。また、園児数の減少についても、「適正規模に達していない」という結果だけを見るのではなく、その背景にある原因を検証することが重要ではないでしょうか。例えば、公立幼稚園では長年にわたり2年保育を維持してきましたが、一方で保護者の多くは3歳からの入園を希望しています。実際に3年保育を実施している私立幼稚園ではもちろん、公立幼稚園でも3歳児の入園児数が一定数いるという実態があります。つまり、現在の園児数は、少子化だけではなく、公立幼稚園の制度と保護者ニーズとの間に生じているミスマッチの影響も受けられていると考えられます。このような社会情勢の変化や園児数減少の要因について十分な検証を行わないまま、根拠が不明確な15人未満という人数を基準として公立幼稚園の再編を進めることは、判断の前提として十分とは言えないと考えます。私たちは、まず現在の社会状況や保護者ニーズ、そして宝塚市が掲げる教育理念を踏まえ、公立幼稚園の基本方針そのものを見直していただきたいと強く要望いたします。

2 宝塚市が目指す教育は、すでに公立幼稚園で実践されています

市長が掲げるインクルーシブ教育や探究的な学びは、将来の目標ではなく、公立幼稚園で日々実践されています。丸橋幼稚園は、私立幼稚園から転園・あるいは入園の機会が得られなかった加配・特性を持つ子どもを受け入れてきており、地域の公立幼稚園にしか果たせない重要な機能を担っています。具体的な例を挙げると以前通っていた幼稚園では園児数が多く、教員の努力だけでは目が行き届かない事情で転園されてきた子どもや、私立幼稚園の入園を断られた子どもを受入れ、小学校へと教育をつなぐ貴重な教育機関としての役割を果たしています。また在園児数の減少に対して異年齢クラスを導入することで、年長の子どもたちは年下の子どもの見本となるべく手本を見せたり、手伝う姿が見られ責任感や年長者としての自覚を養う機会を創出しています。更に年中の子どもたちは年長の子どもの振る舞いを見て、自身の目標に据えたりなりたい姿を自分に重ね自ら努力する姿を見ることが出来ます。私たちの子どもも、昨年在籍されていた加配対応が必要な年長の子どもを見て、活発に挑戦する姿に憧れを抱き、目標に据えて今年は年長として年中の子どもたちの見本になれるよう頑張っています。異年齢は在園児数減少における一時的な処置であることは承知していますが、少人数であるからこそ実現できたこのような教育機会は非常に貴重なものであり、在園児数のみで教育品質の低下を掲げる市教育委員会の方針は疑問を抱きます。

丸橋幼稚園の園児たちは互いに刺激しあい、共に遊び、共に学び、共に育っています。保幼小中連携事業により、時には公立保育園の子どもたちと触れ合い刺激され、時には小学校の子どもたちと交流したくさんの発見をし、時には中学校のお兄さん、お姉さんたちと触れ合い、自身になりたい姿を見つけています。丸橋幼稚園は地域に根差した交流が行われており休日に子どもの名前を呼んでくれるお兄さんやお姉さんが多くいます。このような地域に交流が活発に行われる環境の構築は、保幼小中連携事業を推進している公立幼稚園だからこそ実現できているものと考えます。また、公立幼稚園では、子ども自身が身近な環境から課題を見つけ、自ら考え、友だちと協力しながら学びを深める探究的な活動が日常的に行われています。さらに、公立幼稚園では教職員の異動があっても教育の質が維持され、高い専門性を持った先生方が一人ひとりに寄り添った教育を実践されています。この教育の質は、公教育だからこそ市全体で保障できる大切な財産であると私たちは考えています。

3 園児数減少への対策として、3年保育を試行してください

現在、公立幼稚園の園児数減少が再編の理由の一つとされています。しかし、その背景には、保護者の多くが3歳からの入園を希望している現状があります。実際に市内の3年保育実施園では3歳児の割合が高く、4・5歳からの入園は極めて少ない状況です。このことは、2年保育では保護者の選択肢に入りにくくなっている現実を示しています。丸橋幼稚園では未就園児を対象としたくまさんクラブという月1回の幼稚園体験クラスを実施していますが2年保育であることが理由で丸橋幼稚園を断念する家庭も実際に存在します。また、園児数のみを理由として判断する前に、廃園対象園で3年保育を試行し、その効果を検証することが必要ではないでしょうか。私立幼稚園への配慮から3年保育を断念しているという市教育委員会の主張はそもそも子どもたちの教育を中心に据えた見解ではなく到底受け入れられるものではありません。私たちは、まず試行し、その結果を踏まえて議論していただくことを強く要望します。

4 公立幼稚園を必要としている家庭があります

私たちは私立幼稚園を否定しているわけではありません。一方で、公立幼稚園だからこそ安心して子どもを預けられる家庭があることも事実です。実際に、私立園から公立園へ転園してきた子どもや、様々な事情から公立幼稚園を選択している家庭があります。

車での通園も限界があります。そもそも駐車スペースが確保されていないことにより安全な通園環境が整備されていない、車を通園に使用できない家庭があることを考慮されていない実情があります。丸橋幼稚園は同地区で唯一の公立幼稚園です。

私立幼稚園での入園を断られる子ども、加配の対応が必要な子どもを受け入れる丸橋幼稚園がなくなると、今まで丸橋幼稚園が受け入れてきた子どもたちはどこに通えばいいのでしょうか？最も近い公立幼稚園は長尾幼稚園となり通園距離が2.1kmも増えます。子どもの足では通えません。

こうした現状を踏まえると、私立幼稚園で十分な受け皿が整ったとは言えない中で公立幼稚園を縮小することは、子どもたちに不利益をもたらす可能性があります。

また代替選択肢として掲げられる保育施設の拡充では両親の就労条件によって入所することが出来ない等、子どもたちにとって教育機会が損なわれる可能性もあります。

更には地区内で今幼児教育を受けていない子どもたちへの説明がない事や、幼児教育の受け皿がないリスクが野放しになっている環境を放置した現状では地区内唯一の公立幼稚園の閉園判断は時期尚早と考えます。

おわりに

私たちは、幼稚園だけを守りたいのではありません。宝塚市が目指すインクルーシブ教育と探究的な学びを、就学前教育から未来へつなぎ、公立幼稚園全体が持続的に発展していくことを心から願っています。ぜひ一度、丸橋幼稚園の取組を客観的に評価いただく機会を設けて下さい。丸橋幼稚園の教職員の皆様がどれだけ子どもたちの教育に心血を注ぎ、工夫されているか、子どもたちがその教育を受けて成長しているか、保幼小中連携事業により地域の教育機関と以下に連携しているか、公立幼稚園の教育的価値がかけがえのないものであることをご理解いただけること確信しております。また、現場で子どもたちを見守り、ともに子育てをしている私たち保護者の思いも、公立幼稚園の将来を考える上での大切な一つの声として受け止めていただければ幸いです。どうか現場をご覧いただき、その上で宝塚市の公立幼児教育の未来をご判断いただけますよう心よりお願い申し上げます。

丸橋幼稚園 保護者代表

丸橋幼稚園 保護者一同

宝塚市の公立幼児教育の在り方に関する要望書

宝塚市長 森 臨太郎 様

平素より、市政運営並びに教育・子育て施策の推進にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

また、市長が掲げておられる「子どもを真ん中に据えたまちづくり」や、誰一人取り残さないインクルーシブ教育、自ら考え学ぶ探究的な教育の推進に、私たちは大きな期待を寄せています。

私たち保護者も、その理念に深く共感しております。

今回、公立幼稚園再編の議論が進められる中で、私たちは改めて公立幼稚園が果たしている役割について考える機会となりました。

私たちは、特定の園を残してほしいという思いだけで本要望書を提出するものではありません。

宝塚市が目指されている教育を、就学前教育の段階からどのようにつないでいくのか。そして、未来を担う子どもたちにとって本当に必要な教育環境とは何かを、市とともに考えていただきたいという思いから、本要望書を提出いたします。

1 公立幼稚園は、宝塚市が目指す教育を実践している場です

公立幼稚園では、子ども一人ひとりの個性や成長に寄り添いながら、安心して過ごせる教育環境がつくられています。

少人数だからこそ、子どもの小さな変化や成長を丁寧に見守ることができ、一人ひとりの個性を大切にしたいきめ細かな関わりが実現しています。

子どもたちは互いの違いを自然に受け入れ、ともに遊び、ともに学びながら成長しています。

また、身近な環境から興味や疑問を見つけ、自ら考え、友達と協力しながら学びを深める探究的な活動も日々行われています。

さらに、公立幼稚園では地域の小学校とのつながりを大切にした教育活動も行われています。

小学校が隣接している環境を生かし、日頃から小学生との交流の機会があり、子どもたちは年齢の異なる友だちとの関わりの中で、憧れや思いやりの気持ちを育んでいます。

特に高学年の児童との交流は、子どもたちにとって小学校生活への安心感や期待につながり、入学後の人間関係づくりにも良い影響を与えています。また、幼稚園から小学校への移行においても、日頃から子どもの様子や成長過程を共有できる環境があり、必要な支援や配慮について円滑に情報をつなぐことができます。

このような幼小連携は、子どもたちが安心して次の学びへ進むための大切な基盤であり、地域に根ざした公立幼稚園だからこそ実現できる大きな価値であると考えています。

これらは、市長が掲げられているインクルーシブ教育や探究的な学びそのものであり、公立幼稚園は宝塚市が目指す教育理念を実践する大切な場であると私たちは考えています。

2 公立幼稚園の基本方針を、現在の状況に合わせて見直してください

今回の公立幼稚園再編は、約10年前に策定された「宝塚市立幼稚園の適正規模及び適正配置に関する基本方針」をもとに進められています。

しかし、この10年間で、就学前教育を取り巻く環境は大きく変化しました。

少子化の進行、共働き世帯の増加、保護者の就労形態の多様化、幼児教育・保育の無償化、3年保育を前提とした園選びの一般化など、保護者のニーズは大きく変化しています。

また、宝塚市が目指す教育の方向性も、インクルーシブ教育や探究的な学びなど、新たな役割が求められています。

私たちは、10年前に策定された基本方針そのものを否定しているわけではありません。

しかし、社会状況や教育への期待が大きく変化した現在、その前提条件が今も適切なのかを改めて検証し、必要に応じて見直すことが必要ではないかと考えます。

園児数という結果だけを見るのではなく、その背景にある要因や、公立幼稚園が果たしている役割も含めて総合的に判断していただくことを要望いたします。

3 園児数減少への対策として、3年保育の試行をお願いします

現在、公立幼稚園の園児数減少が再編の理由の一つとされています。

しかし、その背景には、多くの保護者が3歳からの入園を希望している一方で、公立幼稚園では長年2年保育を基本としてきたという制度とのミスマッチもあるのではないのでしょうか。実際に3年保育を実施している園では3歳児の入園が多く、公立幼稚園でも3歳児募集を行った園では一定数の入園がありました。

園児数だけを見て判断するのではなく、現在の保護者ニーズに合わせた取り組みを試み、その効果を検証することが必要だと考えます。

そのため、再編対象園などにおいて3年保育を試行し、その結果を踏まえて今後の公立幼稚園の在り方を検討していただくことを要望いたします。

4 公立幼稚園を必要としている家庭があります

私たちは、私立幼稚園を否定しているものではありません。

一方で、公立幼稚園だからこそ安心して子どもを通わせることができる家庭や、さまざまな事情から公立幼稚園を選択している家庭があります。

公立幼稚園には、地域の中で子どもたちを育て、多様な子どもたちを受け止める大切な役割があります。その役割や必要性を十分に検証することなく縮小を進めることについては、慎重にご判断いただきたいと思います。

おわりに

私たちは、特定の園だけを守りたいという思いで活動しているではありません。

宝塚市が掲げる「子どもを真ん中に据えたまちづくり」を、就学前教育の段階から未来へつなぎ、公立幼児教育がより良い形で発展していくことを願っています。

市長におかれましては、ぜひ一度、現場へ足をお運びいただき、子どもたちの姿、先生方の関わり、そして保護者の思いをご覧くださいれば幸いです。

数字や資料だけでは伝わらない、公立幼稚園の教育の価値があります。

現場をご覧くださいいた上で、宝塚市の公立幼児教育の未来についてご判断いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

未成幼稚園保護者有志 代表

宝塚市の公立幼児教育の在り方に関する要望書

宝塚市長 森 臨太郎 様

平素より、市政運営並びに教育・子育て施策の推進にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。また、市長が掲げておられる「子どもを真ん中に据えたまちづくり」や、誰一人取り残さないインクルーシブ教育、自ら考え学ぶ探究的な教育の推進に、私たちは大きな期待を寄せています。

今回の公立幼稚園再編の議論を契機として、公立幼稚園全体の在り方、そして宝塚市の公教育の在り方を改めて見つめ直し、未来の子どもたちのためにより良い教育環境を築いていただきたいとの思いから、本要望書を提出いたします。

現在、公立幼稚園再編の方針が示されたことにより、保護者の間には大きな戸惑いと不安が広がっています。また教育委員会の進め方についても場当たり的で誠実さが感じられません。

子どもたちは今後も安心して地域で教育を受けられるのか、公立幼稚園という選択肢は残されるのか、支援を必要とする子どもたちの受け皿は確保されるのか——多くの保護者が将来への不安を抱えています。

私たちは、この不安を単なる反対の声としてではなく、宝塚市の未来の教育を共に考える機会として受け止めていただきたいと願っています。

1 公立幼稚園の基本方針を見直してください

今回の公立幼稚園再編は、約10年前に策定された「宝塚市立幼稚園の適正規模及び適正配置に関する基本方針」をもとに進められています。

しかし、基本方針の策定以降、宝塚市の就学前教育を取り巻く環境は大きく変化しました。少子化の進行に加え、共働き世帯の増加、保護者の就労形態の多様化、幼児教育・保育の無償化、3年保育を前提とした園選びの一般化など、保護者のニーズは大きく変化しています。さらに、宝塚市が現在推進しているインクルーシブ教育や探究的な学びなど、公教育に期待される役割も、この10年間で大きく広がりました。

行政計画は、一度策定したら変えないものではなく、社会情勢や市民ニーズの変化に応じて検証し、必要に応じて見直すことで初めて実効性を維持できるものと考えます。

私たちは、10年前に策定された基本方針そのものを否定しているのではありません。

しかし、その方針が策定された当時の前提条件が現在も妥当であるかについて十分な検証が行われないまま、一部の基準のみを根拠として公立幼稚園の再編を進めることには、大きな疑問を感じています。

また、園児数の減少についても、「適正規模に達していない」という結果だけを見るのではなく、その背景にある原因を検証することが重要ではないでしょうか。

例えば、公立幼稚園では長年にわたり2年保育を維持してきましたが、一方で保護者の多くは3歳からの入園を希望しています。実際に3年保育を実施している私立幼稚園ではもちろん、公立幼稚園でも3歳児の入園児数が一定数いるという実態があります。

つまり、現在の園児数は、少子化だけではなく、公立幼稚園の制度と保護者ニーズとの間に生じているミスマッチの影響も受けていると考えられます。

このような社会情勢の変化や園児数減少の要因について十分な検証を行わないまま、園児数という結果のみを根拠として公立幼稚園の再編を進めることは、判断の前提として十分とは言えないと考えます。

私たちは、まず現在の社会状況や保護者ニーズ、そして宝塚市が掲げる教育理念を踏まえ、公立幼稚園の基本方針そのものを見直していただきたいと強く要望いたします。

2 宝塚市が目指す教育は、すでに公立幼稚園で実践されています

市長が掲げるインクルーシブ教育や探究的な学びは、将来の目標ではなく、宝塚幼稚園をはじめとする公立幼稚園で日々実践されています。

宝塚幼稚園には、外国にルーツを持つ子ども、日本語による支援が必要な子ども、発達や身体面で配慮を必要とする子どもなど、多様な背景を持つ子どもたちが在籍しています。

子どもたちは互いの違いを自然に受け入れ、共に遊び、共に学び、共に育っています。

また、公立幼稚園では、子ども自身が身近な環境から課題を見つけ、自ら考え、友だちと協力しながら学びを深める探究的な活動が日常的に行われています。

さらに、公立幼稚園では教職員の異動があっても教育の質が維持され、高い専門性を持った先生方が一人ひとりに寄り添った教育を実践されています。

この教育の質は、公教育だからこそ市全体で保障できる大切な財産であると私たちは考えています。

3 園児数減少への対策として、3年保育を試行してください

現在、公立幼稚園の園児数減少が再編の理由の一つとされています。

しかし、その背景には、保護者の多くが3歳からの入園を希望している現状があります。

実際に市内の3年保育実施園では3歳児の割合が高く、4・5歳からの入園は極めて少ない状況です。

このことは、2年保育では保護者の選択肢に入りにくくなっている現実を示しています。

園児数のみを理由として判断する前に、廃園対象園で3年保育を試行し、その効果を検証することが必要ではないでしょうか。

私たちは、まず試行し、その結果を踏まえて議論していただくことを要望します。

4 公立幼稚園を必要としている家庭があります

私たちは私立幼稚園を否定しているわけではありません。

一方で、公立幼稚園だからこそ安心して子どもを預けられる家庭があることも事実です。

実際に、私立園から公立園へ転園してきた子どもや、様々な事情から公立幼稚園を選択している家庭があります。

こうした現状を踏まえると、私立幼稚園で十分な受け皿が整ったとは言えない中で公立幼稚園を縮小することは、子どもたちに不利益をもたらす可能性があり、時期尚早と考えます。

おわりに

私たちは、宝塚幼稚園だけを守りたいものではありません。

宝塚市が目指すインクルーシブ教育と探究的な学びを、就学前教育から未来へつなぎ、公立幼稚園全体が持続的に発展していくことを心から願っています。

ぜひ一度、宝塚幼稚園へお越しいただけませんか。

現場をご覧いただければ、数字や資料だけでは伝わらない公立幼稚園の価値をより深くご理解いただけるものと確信しております。

また、現場で子どもたちを見守り、ともに子育てをしている私たち保護者の思いも、公立幼稚園の将来を考える上での大切な一つの声として受け止めていただければ幸いです。

どうか現場をご覧いただき、その上で宝塚市の公立幼児教育の未来をご判断いただけますよう心よりお願い申し上げます。

宝塚幼稚園を守る会 代表

宝塚幼稚園保護者一同

諮問事項 2 市立幼稚園の教育・保育の在り方について

資料 4 - 1

教育の質のさらなる向上

私立幼稚園に通う園児との公平・均等の確保（私立幼稚園児が受けられる教育サービスを市立幼稚園児にも）

保護者ニーズへの対応



3年保育の拡充

保育時間の延長

給食の提供

登園方法の緩和

その他

諮問事項 3 公教育における教育委員会及び市立幼稚園の役割

資料 4 - 2

宝塚市就学前教育ビジョンに基づく教育の
充実

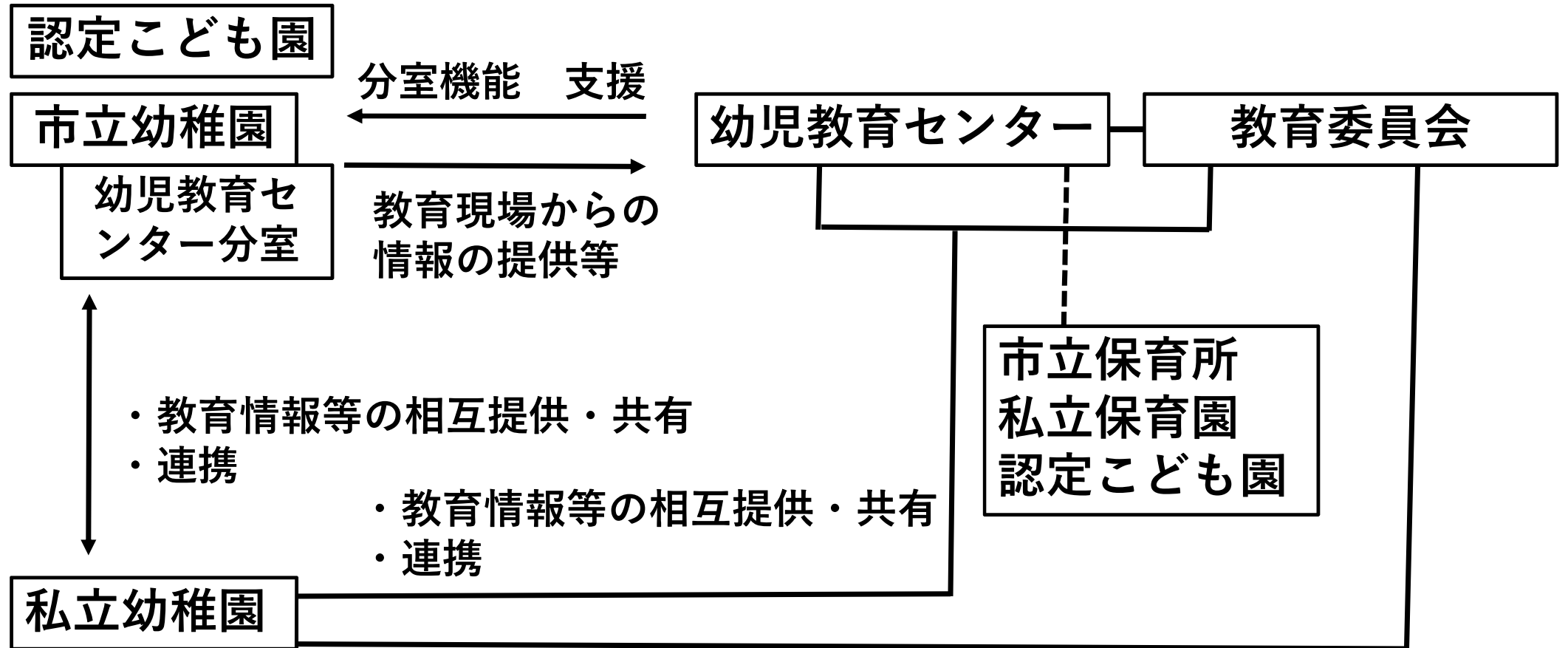
就学前教育・保育の拠点としての市立幼稚園

特別支援教育の充実

小学校との連携

教育委員会及び市立幼稚園の役割を実現するために

資料4-3



教育資源の配分（人的、物的、金銭的支援）

市立幼稚園・私立幼稚園・認定こども園・市立保育所・私立保育園の垣根を越えてすべての子どもが等しく質の高い教育を受けられるように

教育委員会諮問第 2 号

宝塚市教育環境審議会

宝塚市の幼稚園教育の振興等について（諮問）

宝塚市の幼稚園教育の振興等について、別紙のとおり諮問します。

令和 8 年（2 0 2 6 年）7 月 9 日

宝塚市教育委員会

(別紙)

宝塚市の幼稚園教育の振興等について

1 諮問事項

- (1) 市立幼稚園の適正規模及び適正配置について
- (2) 市立幼稚園の教育・保育の在り方について（機能充実）
- (3) 教育委員会及び市立幼稚園の公教育としての役割について

2 諮問理由

(1) 諮問事項 1

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる重要な時期に当たります。そのため、本市では、市立幼稚園 7 園、私立幼稚園 14 園、公私立保育所 35 所園、小規模保育施設 3 施設、合わせて 59 の施設で幼児教育・保育を担っています。

これまでの少子化に加えて、近年、本市では長時間保育を実施する保育所への需要が高まったことから、幼稚園の園児数が大幅に減少しており、特に市立幼稚園の園児数の減少は顕著で、今後もこの傾向は継続するものと見込んでいます。

市立幼稚園では、既に全ての幼稚園で各学年が単学級になっており、1 学級あたりの平均園児数は 12 人で集団による効果的な保育が困難な状態になっています。

こうした市立幼稚園の適正規模及び適正配置について再考する必要があるものと考えています。

(2) 諮問事項 2

市立幼稚園に対しては、過去から 3 年保育や保育時間の延長、それに伴う給食サービスの提供など、保護者から多くの要望が寄せられてきました。

諮問事項 1 による適正規模及び適正配置の結果も踏まえて、市立幼稚園の機能の充実についても検討する必要があります。

(3) 諮問事項 3

本市の就学前児童の 95% の児童が市立小学校へ進学しています。そのため、教育委員会では、本年 4 月に宝塚市就学前教育ビジョンを策定し、本ビジョンに基づく教育の

充実として、子どもの未来を拓く学びと生活の基盤を育むための指針を示しました。

この他、本市では平成29年度（2017年）から幼児教育センターを設置して、私立幼稚園や公私立保育所に経験豊富なアドバイザーを派遣することや研修会を企画するなど、就学前教育・保育施設の質の向上を図ってきました。

特に配慮の必要な幼児が増加傾向にあることから、特別支援教育を充実させる必要があり、小学校への連携も重要になってきます。

市立幼稚園に就園する児童が減少する中、就学前施設の類型に関わらず、広く幼児教育を充実発展させるために果たすべき教育委員会の役割や教育の就学前教育の拠点としての市立幼稚園の在り方について検討する必要があります。

以上、3点について諮問します。